１年１組 国語科学習指導案

１　単元名　くわしく　かこう
「しらせたいな　見せたいな」

２　単元について

本単元は学習指導要領【第１，２学年】の内容Ｂ(1)ア，Ｂ(2)アを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○観察したことを短い言葉で書いたり，文章にして書いたりすることを通して，言葉には事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知（１）ア)
【思考力，判断力，表現力等】
○既習事項や生活の中で，経験したことなどから書くことを見つけ，必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思Ｂ（１）ア)
【学びに向かう力，人間性等】
○相手に伝わりやすい文章を書くために，どのような情報が必要なのか，どのように書くとよいのかを考え，学習の見通しをもって取り組むことができる。

本単元では，生活科「たのしいあきいっぱい」の学習で見つけた植物や花を，学級の仲間に伝わりやすい文章で紹介することを目標としている。既習の「おおきくなった」では，観察したことを色，形，大きさの観点ごとに文にする学習をした。本単元では，より詳しく観察して的確な言葉で表し，語や文のつながりに気をつけて文章にする。

１年生は，学校で自分が見つけたものを，仲間に知らせたいという気持ちが強い。児童が「知らせたい，教えたい。」という気持ちが湧き出るように，生活科「たのしいあきいっぱい」の学習を通して紹介する材料を見つけたい。

本時では，自分の紹介したい植物や花の特徴を文章にする前段階として，短い言葉で特徴を書き出す活動に取り組む。まだ，観察したことをすぐに文にして書くことが難しいため，短い言葉で書いたものを文にするという，スモールステップを踏んだ学習の組み立てになっている。

相手に知らせる喜びや楽しさ，相手が興味をもってくれる喜びを体験し，文章を書くことへの自信へとつなげたい。

３　研究にかかわって

研究内容１-（１）他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

【自分が書いた特徴を仲間と交流し，質問したり助言したりする】

対象の特徴を観察する際，ほとんどの児童が色や大きさ，形に注目している。この特徴は，対象を見てすぐ捉えることができるからだ。またこれらの特徴は，生活科で観察カードを書く際や国語科「おおきくなった」の既習事項である。本単元を通して，見た目や既習事項以外でも，においや触り心地などを言語化し，より伝わりやすい文章を書くことを目指したい。

そのために，教師が提示するモデルをもとにして，児童が見通しをもって学習できるようにする。交流の際には，質問や助言をしやすいように，同じ対象を選んだ子と交流する。自分が知らせたいことや特徴，順番を話し，相手の思いに合った助言をすることで，深い学びにつなげたい。

研究内容２-（１）発問・意図的な価値付け

【交流の中で，つなげて考え，話す姿を価値付ける】

既習事項を頼りに考えている姿や，仲間の助言から自分の考えを付け足しながら書く，話す姿を価値付けていくことで，交流をより深いものにしていく。価値付けをきっかけに，自分の考えたことや助言，仲間との交流に自信をもち，より有意義な交流ができるようにしたい。

研究内容２-（２）単元・一単位時間での終末の在り方

【振り返りで，自分が学んだことや仲間から学んだことを発表する】

本時は自分が選んだ対象の特徴を観察し，観察の視点や内容を仲間と交流する。仲間との交流を通して，新たな視点を獲得した，表現の語彙が増えたと実感できるようにしたい。

そのために振り返りでは，自分の学びの変容や分かったこと，仲間に助言してもらったことを全体で交流することで，本時の学びを確認し確かなものにしていきたい。

4 単元指導計画（全十時間）

単元
くわしく かこう
「しらせたいな 見せたいな」

過去の指導との関連
一年六月 おおきく なった・・・対象を観察して、色、形、大きさなどの観点で簡単に書く。

ねらい

本時働かせる見方・考え方

見方・考え方を働かせている姿

単元の課題

知らせたい草花や木の実の特徴を見つけ，仲間に伝えよう。

1次 見通しをもつ

【第一時】
学校で見つけた草花や木の実から、進んで知らせたい内容を見付け、学習の見通しをもつことができる。
〈学びに向かう力、人間性等〉

単元でどんな力を付けるか。
自分の知らせたい草花や木の実の特徴を、だれにどのように伝えるか。

○自分が見つけた草花のことを、学級の仲間に伝えたいな。
○同じ種類の植物でも、大きさや色の違いがあるのかな。

2次 自分が知らせたい草花や木の実の特徴を見つけ，伝えたいことに合った文章を書く

【第二時】
知らせたいものをよく観察して、絵を描くことができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉

対象の特徴を捉えながら、絵を描く。

○一枚の葉でも、何色か色が混ざっているな。
○花びらは何枚ついているのかな。

【第三時】（本時）
描いた絵から線を引いて、観察して見つけた特徴を短い言葉で書く。
〈思考・判断・表現〉

どのような特徴を知らせると相手に伝わりやすいか。
観察する視点は何か。

○どの花も、同じ枚数なのかな。
○においも知らせると、もっと伝わりそうだな。
○においや触った感じを擬音語で表現すると、想像しやすいな。

【第四・五時】
教科書の作例を比べ、短い言葉をどのように文にするかを考え、短冊カードに文章で書くことができる。
〈知識及び技能〉

主語は何か。文末表現は、どう書くのが適切か。どのように文にすると伝わりやすいか。

○主語をはっきり書くと、何について書かれているか分かりやすいな。

【第六・七時】
短冊カードを並べ替えて、書く順序を考える。書き出しの文を考え、決めた順序に沿って文章を書くことができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉

どの順番で書くとわかりやすいか。
どのような文で書き出すと分かりやすいか。

○自分が一番伝えたいことを初めに書こうかな。
○何を、どこで見付けたのかを書くと、興味をもって聞いてもらえそうだな。

【第八時】
文章を読み返し、必要に応じて直すことができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉

句読点や「は」「へ」「を」を正しく使い、分かりやすい文が書けているか。

○間違いがあったけど、書き直してわかりやすい文になったよ。
○句読点や「は」「へ」「を」を使い分けると、読みやすい文になるんだな。

3次 発表する

【第九・十時】
仲間に発表し、感想をもらう。
単元の学習を振り返る。
〈学びに向かう力、人間性等〉

自分が知らせたいことが文章で書くことができたか。
今後生かしていけるのはどんなときか。

○自分が知らせたいことに合った特徴を入れると、相手にも伝わりやすいな。
○今回学んだことを、生活科の観察カードを書くときに生かしたいな。

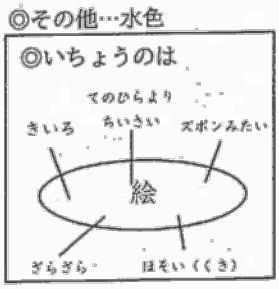
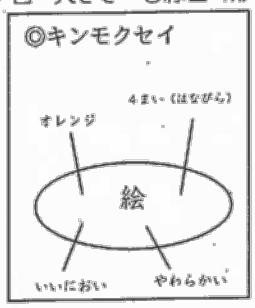
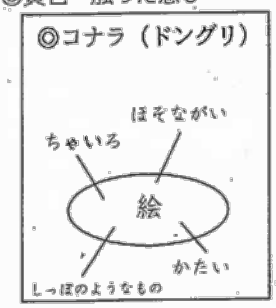
今後の指導との関連
一年 自どうしゃずかんをつくろう・・・説明の順序に気を付けて書く。
どんなおはなしができるかな・・・友達が書いたお話を読んで、思ってがみでしらせよう・・・したことや思ったことなど、知らせたいことを書く。
いいこといっぱい，一年生・・・まとまりに分けて、出来事とそれについて思ったことを書く。

【言語活動】
言語活動の意義
自分が知らせたいと思う草花や木の実の特徴を言語化し、相手に伝わりやすい文章を書くことができる。
児童の意識
〈相手意識〉一年一組の仲間に
〈目的意識〉自分が知らせたい草花や木の実の特徴を伝えるために
〈場面・状況意識〉知らせるための文章を書く場面で
〈方法意識〉観察したことを短い言葉で書き、それを文章にして
〈評価意識〉自分が知らせたいことに応じた文章を書くことができたか

5　本時のねらい

自分が知らせたい草花や木の実の，どのような観察の観点を知らせると相手に伝わりやすいのかを考え，見つけた特徴を短い言葉で書き出すことができる。

6　本時の学習展開（3/10）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　前時までの学習を振り返り，見通しをもつ。** ・本時は「観察をし，特徴を書き出す」ことを確かめる。 **2　二つのモデルを比べ，どんな「見付けたこと」を書きだせばよいか全体で交流する。** ○先生は，△△の観察をしました。△△のことがくわしく書いてあるのはどちらですか。 ・右は触った感じが書いてあるけれど，左は書いていないです。 ・触った感じが書いてあるから，△△のことがくわしくわかります。 **3　本時の学習課題を設定する。** 見つけたことを，みじかいことばでかこう。	【研究内容Ⅰ-（1）】 ・言語意識を確認する。 相手：1の1の仲間 目的：自分が見つけた植物や花をしらせる ・前時までの板書等を基に振り返れるようにする。 ・モデルを基に考えることを通して，学習の見通しをもつことができるようにする。 ・どのようなことをしらせると相手に伝わりやすいのか考え，特徴を書き出すことができるようにする。
考える	**4　見付けたことを書き出し，観点ごとに色を分けて線を引く。** ○見付けたことを色で分けましょう。他にも気付いたことがあれば，書き足してもよいです。 ◎ピンク色…色　◎オレンジ色…大きさ　◎緑色…形　◎黄色…触った感じ ◎その他…水色    	【研究内容Ⅰ-（1）】 ・仲間との対話を通して，自分の考えを確かめる。 また，仲間からの質問や助言を通して，自分が書いた特徴が相手に伝わりやすいか，他に付け加えた方がよい特徴があるかを考える。
深める	**5　葉グループ，花グループ，木の実グループに分かれ，特徴を交流したり助言したりする。友達のアドバイスを参考に，特徴を付け加える。** ○グループに分かれて，交流しましょう。仲間に気付いたことを教えてもらったら書き足しましょう。 葉グループ A児：触った感じを書くと，わかりやすいよ。 B児：わたしも書いてみようかな。どう書いたらいいかな。 花グループ C児：キンモクセイはいいにおいなんだね。 D児：周りで似たようなにおいのものはあるかな。 木の実グループ E児：実の先がしっぽのようにとがっているんだね。 F児：とがっていない実もあるから，特徴がよく書かれているね。	【研究内容2-（1）】 ・既習事項を思い出しながら書く姿や，仲間の助言から自分の考えを付け足して書く様子を価値付けていくことで，交流が深まるようにする。
確かにする	**6　本時の学習を振り返る。** ・振り返り表に振り返りを書く。（花丸・◎・○） ①しらせたいことを見つけることができた。 ②しらせたいことを，みじかいことばでかけた。 ③見つけたことを，なかまとたしかめたれた。 ○振り返りを全体で交流する。 ・花びらが何枚ついているのか，どのような形なのかを書き出すと，伝わりやすいことがわかりました。 ・□□さんが，触った感じを書くといいと言っていたので，私も書いてみました。もっと相手に伝わりやすくなったよ。	【研究内容2-（2）】 ・まとめは，学びの変容や分かったことを確かめ発表することで，本時の学びを確認し深める。 【評価規準】 自分が経験したことなどから書くことを見付け，短い言葉で書いたり，確かめたりしている。 （思考・判断・表現）

2年1組 国語科学習指導案

1 単元名
みんなで話をつなげよう「そうだんにのってください」

2 本時のねらい
自分や仲間の相談の話題に関心をもち，自分の考えを話して，話をつなげることができる。

3 本時の学習展開（7／9）

過程	学習活動	留意点・評価規準
つかむ	**1 前時で考えた話合いでうまくいかなかったときの対処法を振り返る。** ・意見を言えず困ったときは，前の人の考えを繰り返して，確かめて，広げていくとうまくいくな。 ・順番を決めれば，話す準備ができるな。 **2 本時の学習課題を設定する。** つなげることを大切にして，話し合いをしよう。	・前時に出た困りと解決方法を提示し，振り返る。 ・前時の解決方法をもとに，本時のめあてとして，大切にしたいつなぎを班ごとに話し合うよう伝える。
深める	**3 話合いを行い，考えを出し合う。** ○4人程度のグループで動画をとりながら話し合いましょう。 A 児 最近、掃除を頑張っています。いつも塵取りにたくさんのごみを集めることができている人がいるけれど、どうやったら自分もたくさん集められるのでしょうか。 B 児 わたしは，両手でほうきを持って掃くといいと思います。どうしてかというと，もっと力を入れることができて，ごみも集まりやすいと思うからです。 ○一つの話合いが終わったら，次の話合いをよりよくするために交流をしてから次の話題にいきます。 ・○○さんがうなずきながら聞いてくれてうれしかった。 ・誰も話してくれないときは困るな。 →前の人の考えを繰り返して確かめてもよかったね。	・話のつなぎ方（質問，確かめ，共感，感想）を話型にしたものを掲示する。 ・話合いに困ったら挙手をして伝えるようにする。交流の様子を聞き，困りの整理することの支援をする。 ・話し合いを時間で区切り，困りの交流を行う。 ・撮影した動画を入れる提出箱を作成する。
まとめる	**4 本時の振り返りをする。** ○今日の話合いはどうでしたか。頑張ったことや，自分や友達のよかったところを振り返りましょう。 ・自分が相談するときに，みんなの話をつなげるように頑張った。話を聞くときには，うなずいて聞いたら、○○さんが嬉しかったと言ってくれたから，これからも続けたいな。	評価規準 互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなげている。（思考・判断・表現）

６年２組 国語科学習指導案

１　単元名

筆者の工夫をとらえて読み，それをいかして書こう

「『鳥獣戯画』を読む」

「発見，日本文化のみりょく」

２　単元について

本単元は学習指導要領【第５，６学年】の内容２Ｂ（1）ウ，１(2)クを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。（知(１)ク）
【思考力，判断力，表現力等】
◎特に伝えたい日本文化の魅力が伝わるように，簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思Ｂ(１)ウ）
【学びに向かう力，人間性等】
○論の進め方について考えたり，書き表し方を工夫したりする活動に粘り強く取り組み，学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとすることができる。

本単元は，「読むこと」教材の「『鳥獣戯画』を読む」と，「書くこと」教材の「発見，日本文化のみりょく」から成る複合単元である。「鳥獣戯画」の魅力についての筆者の見方や考え方，表現の工夫をとらえ，それらを活用して，日本文化のよさを伝える文章を伝える構成となっている。そこで単元を貫く言語活動を「那加ニシュランガイド２０２４～発見した日本文化のみ力を書こう～」と設定した。数多くある日本文化の中から，各自が選んだ日本文化の魅力について，自分が特に伝えたいことが効果的に伝わるよう，準備したいくつかの魅力の説明に軽重を付けたり，書き表し方を工夫したりして書くことを目標としていく。そのために単元の見通しをもった上で，「『鳥獣戯画』を読む」の学習を進めていく。また，選んだ日本文化の魅力について伝えたいことを明確にさせることで，児童が相手意識・目的意識をもって学習に臨み，文章の構成や詳しく書く魅力の選定，効果的な書き表し方の決定につながっていくようにし，迷ったときに立ち返る足場となるようにする。

３　研究にかかわって

研究内容１－（１）

他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

【特に伝えたい魅力と書き表し方の工夫を仲間と交流し，質問したり助言したりする】

本学級には，書くことに対する抵抗感が強い児童が多い。「どんな順番にして，どんな言い回しで書いたらよいか分からない。」と苦手意識を口にする。そこで，「デジタル機器と私たち」の学習では，構成表を使って構成を考えたり，「伝えたいこと」と論の展開に一貫性があるかを仲間と交流したりしてきた。それらの学習を通して，児童は，文章を書く際には集めた情報を書き連ねるのではなく，テーマが似ていても，伝えたいことが違えば，選ぶ情報や提案内容が異なってくることを実感することができた。

本単元では，選んだ日本文化の魅力について，集めた情報を取捨選択するだけでなく，伝えたいことに合わせて，軽重を付けて魅力の紹介を書く。しかし，具体的なイメージをもつことは難しいと考えられる。そこで前半では，2種類の文章のモデルを提示し，比較する。例を挙げて詳しく書かれた魅力と，簡単に説明された魅力を書き分けることによって，自分の伝えたいことが伝わりやすくなることに気付けるようにする。この活動を通して，学習の見通しをもち，児童が主体的に活動できるようにしていく。そして後半では，詳しく伝えたい魅力とその書き表し方の工夫を仲間と交流する。交流前には，話し手と聞き手の双方に視点を提示する。話し手は伝えたいことと合わせて仲間に話すことで，聞き手が視点に沿って質問や助言ができるようにし，深い学びにつなげていく。

研究内容２－（２）

単元・一単位時間での終末の在り方

【振り返りで，仲間から学んだことや自分が考えたことを書く】

児童が学びの変容や深まりを実感できるよう，終末に振り返りの場を設ける。誰からどんな助言をもらい，交流を通して考えたことを書くように促す。そうすることでよりよいものになったという実感や，自信をもって次時の学習に向かおうという学びのつながりを大切にしていく。

単元指導計画（全十一時間）

筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
「『鳥獣戯画』を読む」
「発見、日本文化のみりょく」

過去の指導との関連
五年　自然環境を守るために・・・グラフや表を用いて、考えを伝える文章を書く。（思B（ー）エ）
六年　デジタル機器と私たち・・・説得力のある構成を考え、提案する文章を書く。（思B（ー）イ）

「那加ニシュランガイド２０２４～発見した日本文化の魅力を書こう～」

	1次　見通しをもつ	2次「『鳥獣戯画』を読む」筆者の着眼点や評価，表現の工夫を読み取る	3次「発見、日本文化のみりょく」筆者の書きぶりを生かして，日本文化の魅力を伝える文章を書く
ねらい	【第一時】日本文化について考えることを通して、「鳥獣戯画」について関心をもち、見通しをもって日本文化の魅力を伝えていこうとすることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉	【第二時】筆者が絵のどんな部分に目を向け、どんな評価をしているかを読み取ることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉 【第三時】筆者の絵巻物についての説明と評価を読み取ることができる。〈知識及び技能〉 【第四時】筆者の評価や考えを効果的に伝えるための工夫を捉えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉 【第五時】日本文化について書かれた本を読み、関心をもったことや表現の工夫を伝え合うことができる。〈思考力・判断力・表現力等〉	【第六・七時】日本文化の魅力を伝える学習の見通しをもち、情報を集め、整理することができる。〈知識及び技能〉 【第八時】メモを整理して、構成を考えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉 【第九時（本時）・第十時】選んだ日本文化の魅力について、伝えたいことに合わせて詳しく説明するものと簡単に説明するものを考え交流する活動を通して、特に伝えたい魅力が効果的に読み手に伝わるよう、書き表し方を工夫することができる。〈思考力・判断力・表現力等〉 【第十一時】文章を仲間と読み合い、お互いの文章のよさや工夫を伝え合うことができる。〈学びに向かう力・人間性等〉
本時働かせる見方・考え方	本単元でどんな力を付けるか。日本文化にはどんなものがあるか。	絵に対する筆者の評価は、どの叙述、どんな表現の仕方から分かるか。絵の部分と叙述は、どこがつながるか。 絵巻物に対する筆者の評価は、どの叙述、どんな表現の仕方から分かるか。 論の展開、表現の工夫、絵の示し方の三つの観点から、どんな工夫がされているか。自分の選んだ日本文化を説明する文章を書くときに活かせる表現はないか。 読んだ日本文化について、初めて知ったことや周囲に伝えたいと思ったことは何か。生かせそうな表現の工夫はないか。	自分の伝えたいことは何か。自分が発見した魅力は何か。どんな写真を一緒にのせると分かりやすいか。 「初め」・「中」・「終わり」に何を書くか。 どの魅力を詳しく書くか。詳しく説明するために、どんな例を入れるか。簡単に書くには、どの部分を残すか。魅力の順番はこのままでよいか。高畑さんの表現の工夫をどこで生かせそうか。 魅力が伝わるように、どんな工夫をしているか。印象に残った表現はあるか。学んだことをどんな場面で生かせそうか。
見方・考え方を働かせている姿	○日本文化といえば、着物や和太鼓が思い浮かぶな。 ○那加ニシュランガイドを作って、日本文化の魅力を伝えるのか。何について書こうかな。 ○「鳥獣戯画」に書かれた書きぶりを使って、魅力が伝わるように書きたいな。	○筆者が絵をとてもすごいと思っていることが分かるな。 ○絵の細かいところまでよく見て説明しているな。 ○「国宝だけでなく、人類の宝なのだ。」から、世界中の人に知ってほしいと思うくらい、すばらしいものだと感じているんだな。 ○一文が短いから、文章にリズムがあるな。 ○絵の細かい部分を体言止めを使いながら説明しているから、印象に残るな。 ○「実にすばらしい。」の「実に～だ。」の表現を活かせそうだな。 ○和食が世界遺産になっているなんて、初めて知ったよ。 ○着物にはいくつもの種類があって、着る人や場所で使い分けられているなんて、すごいな。	○情報を整理して、メモに書くことで構成を考えるぞ。 ○魅力は三つくらいにしぼるといいな。 ○写真はこれにしようかな。 ○「初め」と「終わり」の両方に自分の考えを書こう。 ○高畑さんの「～なのだ。」と言い切る表現を使うぞ。 ○魅力の順番はこうしよう。 ○一番伝えたい魅力は、着物の絵柄に意味が込められていることだから、絵柄の例を出して詳しく説明しよう。 ○□□さんに、「○○」の意味を説明する文を入れるといいよとアドバイスしてもらって納得した。 ○この魅力が詳しく書かれているから分かりやすいし、特に伝えたいことだということも伝わるな。 ○「実に～だ。」の表現が印象的だな。 ○特に伝えたい部分を詳しく書くことは、日記や作文でも生かして書けそうだな。

今後の指導との関連
六年　おすすめパンフレットを作ろう・・・引用したり写真を用いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。（思B（ー）エ）
大切にしたい言葉・・・言葉の響きや文のリズムなど、表現を工夫して、自分の思いが伝わるように書き表し方を工夫する。（思B（ー）ウ）

言語活動の意義
自分が伝えたい日本文化の魅力について、どのようにすると相手に分かりやすいかを考えながら、魅力を説明する文章を書くことができる。

児童の意識
〈相手意識〉〈目的意識〉〈場面・状況意識〉〈方法意識〉〈評価意識〉
五年生に日本文化のよさを知ってもらうために説明する文章を書く場面で、インターネットなどで調べたことを整理し、自分が伝えたいことに応じた文章を、書き表し方を工夫しながらまとめることができたか。

5　本時のねらい

選んだ日本文化の魅力について，伝えたいことに合わせて詳しく説明するものと簡単に説明するものを考え交流する活動を通して，特に伝えたい魅力が効果的に読み手に伝わるよう，書き表し方を工夫することができる。

6　本時の学習展開（9/11）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ 考える	**1　前時までの学習を振り返り，見通しをもつ。** ・よさがいくつか見付かった。構成も考えたし，いよいよ文章を書いていくぞ。日本文化のよさが伝わるように書きたいな。 **2　モデルを基に，特に伝えたい魅力を効果的に伝える工夫について，全体で交流する。** ・どのよさも詳しく書かれていると，どれが特に伝えたいことなのか，分かりにくくなってしまう。簡単に書くところと詳しく書くところを分けるのは大切だ。 ・詳しく書くところは，「例えば…」と例を挙げると，読む人がイメージをもちやすくなる。 ・「～は欠かせない。」という表現のところが，印象に残る。 **3　本時の学習課題を設定する。** 特に伝えたいよさが効果的に伝わるように，書き表し方を工夫しよう。	**言語活動** 「那加二シュランガイド２０２４を作って，日本文化の魅力を伝えよう」 相手意識：５年生に 目的意識：日本文化のよさを知ってもらうために **【研究内容２－（１）】** ・提示された２種類のモデルを比較し，効果的に伝える工夫を全体で交流することにより，本時の見通しをもち，目指す交流のイメージがもてるようにする。
深める	**4　自分の伝えたいことに合わせた，詳しく書く魅力や書き表し方について考え，自分の考えをもつ。** **5　同じ日本文化同士のグループで交流し，助言をしあう。** （話す） 伝えたい魅力を聞き手に伝える。特に詳しく伝えたい魅力とその書き表し方の工夫（例・数字・説明・理由・強調）を説明する。 ・私が特に伝えたい魅力は，着物の絵柄によって意味が込められていることです。例えば，鶴は「長寿」「夫婦円満」，桜は，「新しい門出」などの意味があります。「着物のみりょくはそれだけではない。」という表現で，印象付けたいです。 （聞く） 相手が特に詳しく伝えたい魅力を知り，その書き表し方の工夫はよいか着目しながら聞き，質問や助言をする。	**【研究内容１-（１）】** ・話し手と聞き手それぞれに視点を提示し，視覚化することで，助言の足掛かりとする。 ・仲間との対話を通して，自分の考えを確かめる。また，仲間からの質問や助言を通して，自分の伝えたいことに合っているか吟味することにより，考えを深める。 **【研究内容２－（２）】** ・振り返りには，学びの変容や深まり，考えたことを書く。
確かにする	**6　交流を通して，詳しく書きたい情報を調べたり，魅力の順番を考え直したりする。特に詳しく伝えたい魅力を詳しく書く。** **7　本時の学習を振り返る。** ・□□さんに「特に伝えたい3つ目の魅力について，例で出したもの説明も入れると，読む人が分かりやすいと思うよ。」と言われて，確かにその方がいいと思った。もう少し詳しく説明したい。 ・○○さんと交流して，「『いちばん伝えたい魅力は，・・・だ。』があるから，ここが特に伝えたい魅力だと分かったよ。」と言ってもらえて安心した。	**【研究内容２－（１）】** ・本時大切にした３つの視点に目を向けて助言をしていた姿を紹介し，価値付ける。 【評価規準】 特に伝えたい日本文化の魅力が伝わるように，簡単に書いたり詳しく書いたりする個所を決め，書き表し方を工夫している。 （思考・判断・表現）

５年３組 国語科学習指導案

１　単元名　資料を用いた文章の効果を考え，それをいかして書こう
「固有種が教えてくれること」
「自然環境を守るために」

２　単元について

本単元は学習指導要領【第５，６学年】の内容２Ｂ（1）エ，Ｃ（1）ウを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。（知（２）ア）
【思考力，判断力，表現力等】
○引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思Ｂ（１）エ）
○目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすることができる。（思Ｃ（１）ウ）
【学びに向かう力，人間性等】
○粘り強く文章と図表などを結び付けて読み，学習の見通しをもって，読み取った筆者の工夫を生かして統計資料を用いた意見文を書くことができる。

本単元では，「固有種が教えてくれること」で学んだことを生かして，自然環境を守るために自分が伝えたいことに合った意見文を書く。

そのために，まず「固有種が教えてくれること」で，固有種について知り，読み進めていく中で，資料と本文を対応させることや，資料の意味や効果，論の進め方について考える。筆者の思いを読み手に分かりやすく伝えるために，どのような資料を使いどう説明するとよいか学ぶことができる。そこから，児童は日本の自然環境に目を向け，環境を守るために自分はどうしたいか考えることができる。本時は自分が家族や仲間に何を伝えたいか明確にし，統計資料のどの部分に目を向け，どの言葉を使うとよいかを考え，仲間と交流する。常に自分が伝えたいことを意識させることで，児童が相手意識・目的意識をもって学習できるようにしていく。そして，本単元で付ける力「引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を，今後の総合的な学習の時間等で生かしていく。

３　研究にかかわって

研究内容１-（１）他の学習や生活と学びをつなげる学習活動
【自分が選んだ統計資料から書きたい部分を仲間と交流し，質問したり助言したりする】

児童は，統計資料から問いとなる答えを見付ける学習は算数科や社会科の授業で行ってきている。また，何かを知りたいときにインターネットなどで意欲的に調べることができる。しかし，意見文を書くことへの抵抗感をもつ児童は多い。その理由は，「伝えたいことが自分ではっきりしていない」「説得力のある文章を書くために，何をどうしたらよいのか分からない」ということが挙げられる。自分の意見に沿う統計資料を集めるのは今回が初めての児童が多く，より難しいと感じると思われる。本単元を通して，統計資料の用い方や論の進め方など，仲間との交流から考えを深め，自分でできるという自信につなげていく。

本時は，統計資料から自分が伝えたいことに合った数字を選び，読み取ったことを書くという学習活動を仕組む。そのために，モデルを基にして児童が見通しをもって学習できるようにする。そして，児童がまず自分で考え，交流するときは質問や助言をしやすいように同じテーマを選んだ児童と交流する。自分が伝えたいことや書きたいことを話したり，仲間の思いに合った助言をしたりするようにし，対話の必然性をもつことができるようにする。自分の伝えたいことに合っているか，説得力がある文章にするためにどんな説明の仕方をするとよいか考え仲間と交流することにより，深い学びにつなげていく。

研究内容２-（２）単元・一単位時間での終末の在り方
【振り返りで，自分が考えたことや仲間から学んだことを書く】

本時は自分の伝えたいことに合った説明の仕方を考える場面で，資料を用いた文章を書く時に重要なところである。仲間との対話や全体交流を通し，書くことが楽しくなってきた，これからも本単元を生かして書きたいという思いにつなげたい。そのため，振り返りの記述では，自分ができたことや，仲間から学んだことを書くよう促す。そうすることで，書くことの楽しさや自己の学びのよさを味わうことができると考えている。

4 単元指導計画（全十一時間）

単元
資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう
「固有種が教えてくれること」
「自然環境を守るために」

単元の課題　自然環境を守るための意見文を書いて，家族や仲間に伝えよう。

ねらい

過去の指導との関連
五年　見立てる／言葉の意味が分かること・・・事例・理由や論の展開に着目して、要旨を捉える。
五年　みんなが使いやすいデザイン・・・目的に沿って、集めた情報を整理して、報告する文章を書く。
五年　新聞を読もう・・・寄かれた目的や対象を踏まえて、知りたいことに合った新聞や記事を選んで読む。
五年　文章に説得力のある意見文の構成を考える。

本時働かせる見方・考え方

見方・考え方を働かせている姿

1次　見通しをもつ

【第一時】「固有種が教えてくれること」を読み、内容や筆者の説明の仕方に関心をもち、学習の見通しをもつことができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

単元でどんな力を付けるか。
自分が伝えたい自然環境を守るための考えを、だれにどのように伝えるか。

○みんなに説得力のある文章を書くためにはどうするとよいかな。「固有種が教えてくれること」の学習で見付けよう。
○自分が伝えたいことをはっきりさせよう。

2次「固有種が教えてくれること」を通して，説明の工夫を学ぶ

【第二時】文章の構成を考え、原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。〈知識及び技能〉

文章の構成はどのようになっているか。
原因と結果で表している部分はどこにあるか。
筆者の主張は何か。

○「初め」「中」「終わり」に分けよう。
○「人間の活動によって固有種が減ってきている」と書かれている。
○「固有種をできる限り残していかなければならない」ことが筆者の考え。それを生かして、要旨をまとめよう。

【第三時】文章と資料を結び付けたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

どの資料が、どの段落のどの部分に対応しているか。
図表などの資料があることには、どのような効果があるか。

○全部で七つの資料があるな。何を説明しているのかな。
○資料2は必要。日本列島の成り立ちがイラスト入りで分かりやすい。
○資料6、7は筆者の伝えたいことの根拠。

【第四時】筆者の考えや説明の工夫について、自分の考えをまとめ、伝え合うことができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

筆者の考えに納得する部分はどこか。
筆者の論の進め方はどうか。
資料の用い方で参考にしたいことは何か。

○日本の固有種は日本でしか生きられないので、私たちが守っていく必要があるのは納得した。
○「初め」「終わり」で筆者の考えを伝え、「中」で詳しく説明している。資料を使い、日本の固有種の多さと理由から日本の現状を説明しているので説得力がある。

【第五時】図書館の本を読み、説明の工夫や内容についての感想を伝えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

資料の使い方のよいところや説明の工夫はどんなところか。

○環境問題はいろいろあるのだな。みんなに呼びかけしていることが自分でもできそうなので説得力がある。
○いろいろな資料が使われている。年度ごとに比べてあり分かりやすい。

3次．自分が伝えたいことに合うよう意見文を書き，仲間と学び合う

【第六時】自分が関心のある環境問題を選び、その問題について自分の考えに必要な統計資料を集めることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

解決したい問題は何か。そのために、どんな取り組みをするとよいか。
どんな資料があるとよいか。

○3Rについて詳しく知りたい。みんなにリサイクルの大切さを伝えたい。
○たくさん資料があるな。どれを選ぼうかな。
○自分が伝えたいことをもう一度整理しなくちゃ。

【第七時】「初め」「中」「終わり」の構成で自分が書きたい内容を考えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

「初め」「中」「終わり」では、どのようなことを書くとよいか。
グラフや表の読み方はどうするとよいか。

○「初め」と「終わり」に自分の伝えたいことを書くよ。
○「中」には、グラフや表の説明と、それを基に考えたことを書くことが分かった。
○グラフや表から分かることを整理しよう。

【第八時（本時）】作例から資料の用い方や説明の仕方の工夫を見付け、それを生かして自分で選んだ資料から考えたことを交流することを通して、自分が伝えたいことに合った資料と説明の仕方を考えることができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

資料の選び方はよいか。
資料のどこに着目するか。
どんな言葉を使うと分かりやすいか。

○伝えたいことに合った資料を話の順に入れよう。
○資料の中で自分の考えに合う数字を入れるとよい。
○どんな言葉を使うとよいか分かったので使おう。
○題名に自分の伝えたいことを表そう。

【第九、十時】構成メモを基に、自分の考えが伝わるように文章に書き表すことができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

つなぎ言葉をどのようにするとよいか。
伝えたいことに合った文章になっているか。
誤字・脱字はないか。

○グラフや表を用いて書くときの言葉を使って文章を書こう。
○読者への呼びかけも最後に入れてみたよ。
○「グラフや表を用いて書くときは」を使ってもう一度確認してみよう。

【第十一時】意見文に対するよさを伝え合い、身に付いた力や今後の学習に生かしたいことを見付けることができる。〈学びに向かう力、人間性等〉

図表や言葉が伝えたいことに合っているか。
伝えたいことに説得力があるか。
今後生かしていけるのはどんなときか。

○具体的な数字が書いてあるとなるほどと思えたよ。
○資料の効果的な使い方が分かった。
○学んだことを今後の国語や総合的な学習の時間などで文章を書く時に生かしたいな。

今後の指導との関連
五年　あなたは、どう考える・・・意見文を書いて読み合い、文章のよいところを見付ける。・・・事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝え合う。
六年　想像力のスイッチを入れよう・・・筆者の考え方と資料や言葉の使い方を捉える。
『鳥獣戯画』を読む・・・筆者の工夫を捉えたいことに合わせた構成を考える。
発見、日本文化のみりょく・・・伝えたいことを考える。

【言語活動の意義】
言語活動の意義
自然環境を守るために、意見文を書くことができる。筆者の説明の仕方の工夫を生かしながら、集めた資料を根拠にして〈相手意識〉〈目的意識〉〈学級の仲間や家族に〉〈環境を守るために〉できることを伝えるために
児童の意識
〈場面・状況意識〉〈意見文を書く場面で〉〈方法意識〉〈本やインターネットなどで調べた資料を生かして〉〈評価意識〉〈自分が伝えたいことに応じた文章をまとめることができたか〉

5　本時のねらい

作例から資料の用い方や説明の仕方の工夫を見付け，それを生かして自分で選んだ資料から考えたことを交流することを通して，自分が伝えたいことに合った資料と説明の仕方を考えることができる。

6　本時の学習展開（8/11）

	学習活動	研究にかかわって
つかむ	**1　前時までの学習を振り返り，見通しをもつ。** ・「初め　自分の考え」「中　グラフや表の説明と、それを基に考えたこと」「終わり　まとめ」の構成で書く。 **2　作例を基に，グラフや表、説明の仕方のよさを全体で交流する。** ・資料の中で自分の考えに合う注目してほしい数字を入れる。 ・自分が伝えたいことに合った資料から読み取ったことを書く。	【研究内容1-(1)】 ・言語意識を確認する。 相手：5年3組の仲間や家族 目的：自然環境を守るために必要な取り組みを伝えるため ・前時までの板書等を基に振り返られるようにする。 【研究内容2-(1)】 ・モデルを基に考えることを通して，学習の見通しをもつことができるようにする。 ・伝えたいことにより，資料のどの部分を使うと効果的なのか考えられるようにする。 ・注目してほしい数字を入れると読み手に分かりやすいことを確かめる。
考える	**3　本時の学習課題を設定する。** 説得力がある文章にするための書き表し方を考えよう。 **4　どんなことを伝えたいか確認する。** ・分別してごみを出そう。 ・3Rに取り組もう。 ・節水しよう。 ・食べ物を残さないようにしよう。 ・買い物の仕方を考えよう。 ・節電に心がけよう。 **5　注目してほしい数字や読み取ったことを自分で考える。**	
深める	**6　同じ環境問題を選んだ子とグループで交流し，質問したり助言したりする。そして，友達のアドバイスを参考に数字や言葉を決める。** （話す）何を伝えたいかを話し，自分の考えを話す。 ①私はリサイクルの大切さを伝えたい。 ②そのために，「ごみ排出量の推移」やそれに関わる「3R全般に関する意識の変化」の資料を使った。 ③事業系ごみ排出量と生活系ごみ排出量のR1，2年度のところを使いたい。事業系ごみ排出量は減っているが，生活系ごみ排出量は増えている。 ④ごみ問題への関心があるのに，多くの物を買い，捨てている量は増えているところを使いたい。 （聞く）相手が伝えたいことを知り，視点と合うか考えながら聞き，質問や助言をする。 ・自分が伝えたいことの部分を数字を入れて書いてあるのでよい。 ・こちらの年度を比較してもよいのではないか。	【研究内容1-(1)】 ・仲間との対話を通して，自分の考えを確かめる。また，仲間からの質問や助言を通して，自分が考えた資料の説明の仕方が自分の伝えたいことに合っているか吟味することにより，考えを深める。 【研究内容2-(2)】 ・まとめを書く際，学びの深まりを書けるように促す。
確かにする	**7　本時の学習を振り返る。** ・～さんに「こちらの年を比べた方がより説得力があるのではないかな。」と言われてその方がいいと思いました。 ・～さんに「この資料は伝えたいことに合っているから分かりやすいね。」と言われてよかったです。	【研究内容2-(1)】 ・何を伝えたいかを基に資料や表現を考える姿，友達の説明を聞いて助言や質問をする姿を紹介する。 【評価規準】 自分が伝えたいことに合った資料と説明の仕方を考えている。 （思考・判断・表現）

５年１組 社会科学習指導案

１　単元名　情報を生かす産業

２　単元について

本単元は学習指導要領【第５学年】の内容（４）を受け，設定したものである。

そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○情報の種類，情報の活用の仕方に着目して，聞き取り調査やインターネット，画像，統計等の各種資料で調べ，まとめることを通して，大量の情報や情報通信技術の活用は，販売業等の様々な産業を発展させ，人々の生活を向上させていることを理解することができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて，情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え，適切に表現することができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○販売業の大量の情報や情報通信技術の活用について，学習問題を見出し，予想や学習計画を立てたり，学習を振り返ったりして，主体的に学習問題を追究・解決しようとすると共に情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えることができる。

「情報を生かす産業」として教科書では，販売，運輸，観光，医療，福祉などに関わる産業が例示されている。本単元では，児童にとって生活との結び付きが強いと言える「販売業」が教材に適していると判断した。さらに「販売業」の事例として，コンビニエンスストア，ネット通販，スーパーマーケットなどがあるが，その中でもコンビニエンスストアは，小学生もよく利用しており，店の概要，品物の並べ方，レジでの支払いの仕方など日常の生活の中で目にしており，児童が消費者としての経験から追究することができると考えた。

本単元では導入で，コンビニエンスストアが店舗数を増やしている事実と情報活用にはどのような関係にあるのか，生活経験を基に疑問を出し合い，学習問題を立てる。

本時（第２時）では，本校の校区内にあるセブンイレブン那加不動丘店に協力を頂き，ＧＴとして諸藤大介様（セブンイレブン那加不動丘店店長）を迎えて，店内の写真や動画を使い，販売や発注の仕事について具体的に話を聞く。更に様々な資料を自己選択しながら読み取った事実の関係を整理していくことを通して，大量の情報やその情報通信技術が商品販売に生かされている現状を理解し，またそれらの情報活用は私たちの生活も便利なものにしていることに気付くことができるようにしたい。

最後に本単元は，事例選択を可能にする単元モデルを取り入れる。最終時（第６時）には，問題解決（第５時）を終えた後，学習を個別化し，自分の興味・関心に応じた他の産業を一つ選び調べていく。「販売業」で学んだことを生かして，情報を生かす産業についての児童の学びを更に深めていきたいと考えている。

３　研究にかかわって

研究内容２-（１）
発問・意図的な価値付け
【ＧＴ（セブンイレブン店長　諸藤様）から話を聞く】

直接コンビニエンスストアの店長の方から話を聞くことで，消費者としての生活経験を振り返りながら，課題に対する追究意識を高めることが期待できる。その際，店内の写真や動画などを活用し，視覚的に情報が分かるようにしたい。更に店長が経営している別店舗（蘇原柿沢町店）の品揃えの様子が分かる写真から「なぜ店舗によって商品の品揃えが違うのか」を考えることを通して，第３学年での販売に関する学習の学びや生活経験を生かし，消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるように情報を活用していることで，私たちのくらしが便利になっていることに対しても理解を深めていきたい。

研究内容２-（３）
単元・一単位時間での終末の在り方
【学びの認識の変容を実感できる振り返り】

学習支援ソフトを活用して１時間ごとの振り返りを１枚のテキストに記録していくことで、単元を通して学びの認識の変容を各自が実感できるようにする。また互いの振り返りシートを読めるようにし，仲間からも多くの気付きを得られるようにしたい。振り返りの内容は，自分の予想とどのように認識が変わったのか，新しく知ったこと，友達の考えのよさや、自身の中で解決していない問題を振り返りで言葉にし，次の学びにつなげていきたい。

4 単元指導計画（全6時間）　　○ねらい　□単位時間の学習後の子どもの意識

単元名
情報を生かす産業

単元の学習前の児童の意識
農業や水産業では，生産性や品質を高めるなど，今後の課題に向けた努力や工夫をしていた。新聞やテレビを使った情報の産業では，私たちのくらしを便利にする情報を提供するまでに，様々な努力や工夫をしていた。私たちの暮らしを向上させるために，他の産業ではどのように取り組んでいるのだろう。

第１時　くらしを支える産業と情報の活用　（主体的に学習に取り組む態度）
○コンビニエンスストアのレジでの販売の様子の変化やコンビニエンスストアの売上高の推移に着目して，コンビニエンスストアの情報活用に関心をもち，進んで問いを見出し，予想を基に学習の見通しをもつようにする。

コンビニエンスストアの販売の様子を知り，学習問題を考えよう。

わたしたちは，様々な場面で情報を活用して生活している。販売業のコンビニエンスストアでも情報を活用しているが，どのように情報を集めて，何のために活用しているのか分からないので，今後調べていきたい。

【学習問題】
販売の仕事をするコンビニエンスストアでは，どのような情報を何のために活用しているのだろう。

第２時（本時）情報を活用して販売する（知識・技能）
○コンビニエンスストアの情報活用について店舗と本部の連携に着目して読み取る活動を通して，各店舗で集約された大量の売上情報や消費者情報を活用することで，発注や商品開発を行っていることを理解し，さらにそれらの情報の活用は，私たちの生活を向上させていることについて理解することができ

コンビニエンスストアでは，どのように情報を集めて，物を売れるようにしているのだろう。

コンビニエンスストアでは，ＰＯＳシステムやポイントカードを使って，売れた商品の情報やお客さんの情報を収集しており，その収集した情報は，お店の発注や本部での商品開発に生かして売り上げを高めようとしていることが分かった。また情報を使ってお店のある地域に合わせた品揃えをしていることをはじめて知った。

第３時　情報を生かしてものを運ぶ（知識・技能）
○人々の願いに着目して情報活用について調べることで，情報を使って効率のよい正確な商品の配送を実現しているだけでなく，地域の安心・安全なくらしができるように役立っていることを理解できる。

コンビニエンスストアでは，商品を運ぶために情報をどのように活用しているのだろう。

コンビニエンスストアでは，情報を商品の配送にも生かすことで，いつでも確実に商品が届くようにしている。また情報を使って，災害が起きた場合にも対応できるようにしていることを初めて知った。どこに住んでいても安心・安全なくらしができるようにコンビニエンスストアは生活を支えてくれている大切な場所だと思った。

第４時　情報通信技術の活用によるサービスの広がり（思考・判断・表現）
○情報通信技術の活用による販売やくらしの変化に着目して調べることを通して，技術の発展に伴って，他の産業ともつながり，様々なサービスを提供して，私たちの生活の利便性を向上させていることについて考え，表現することができる。

専門に取り扱う場所があるのに，なぜコンビニエンスストアで他の産業を扱うようになったのだろう。

コンビニエンスストアでは，マルチコピー機や，お金をおろしたり，荷物を送ったりすることができるなど，様々なサービスを受けることができる。これらは情報通信技術を活用して，様々な産業とつながっているからこそ実現できており，お客さんにとってもお店にとってもメリットがあることが分かった。今後さらに情報通信技術を使ってサービスが広がり，便利になっていくことを期待したい。

第５時　関係図にまとめる
（思考・判断・表現+主体的に学習に取り組む態度）
○コンビニエンスストアとそれに関わる他の産業の情報活用の相互関係に着目して捉え，それを関係図にまとめる活動を通して，情報通信技術が私たちの生活を便利にしている役割について進んで考え，表現することができる。

コンビニエンスストアの情報活用について，関係図にまとめよう。

コンビニエンスストアでは，収集した大量の情報を分析することで私たちのニーズにあった商品やサービスを提供しており，私たちの生活もより豊かにしてくれていることが分かった。

第６時　他の産業の情報の活用について調べる
（学習の個別化）（主体的に学習に取り組む態度）
○興味・関心のある他の産業について各自選択して，情報の収集，情報の活用の仕方について調べ，販売業と比較することを通して，情報活用による産業の発展や，私たちの生活を向上させている役割について表現することができる。

他の産業は，どのような情報を何のために活用しているのだろうか。

他の産業も販売業と同じで，情報通信技術を活用して情報を収集・分析して発展し，私たちの生活をさらに向上させていることが分かった。情報は社会を変えるのだ。

単元の学習後の児童の意識
コンビニエンスストアでは，大量の情報を収集分析することで，新商品を開発したり，他の産業と連携しながら新しいサービスを提供することで，売り上げを伸ばしてきていることが分かった。今後も販売業をはじめとして，さまざまな産業でも，ＩＣＴやＡＩを活用し，他の産業ともつながりながら発展していき，私たちの生活は更に便利になると考えられる。今後情報の取り扱いにはどのように気を付けていくとよいのか更に学んでいきたい。

5　本時のねらい

コンビニエンスストアの情報活用について店舗と本部の連携に着目して読み取る活動を通して，各店舗で集約された大量の売上情報や消費者情報を活用することで，発注や商品開発を行っていることに気付き，それらの情報の活用が、私たちの生活を向上させていることについて理解することができる。

6　本時の学習展開（2/6）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　学習計画を確認する。** ・今日はコンビニエンスストアでは，どうしてバーコードでチェックしているのかを調べる。 ・どのように情報を集めて，物が売れるようにしているのかを調べる。 **2　本時の学習課題を設定する。** コンビニエンスストアでは，どのように情報を集めて、物を売れるようにしているのだろう。	<資料> ①前時に立てた学習問題，学習計画表 ②コンビニエンスストアの場所の地図 ③POSシステム稼働動画 ④現金以外の支払い方法 ⑤PC・タブレット発注動画 ⑥本部の人の話（動画） ⑦商品開発で作られた商品の実物の一部と写真 ⑧他店舗の品揃えの違いが分かる写真
考える	**3　予想する。** ・レジで清算する時に情報を集めて，売れるものを見付けている。 ・家の人はポイントカード（ICカード）やアプリの割引クーポンを使っているから，使う時に個人情報（名前，住所，性別，連絡先電話番号）が分かると思う。 ・集めた情報を使って商品を注文するときに役立てていると思う。 **4　資料を自己選択し，課題について調べてまとめ，交流する。** 【情報の集め方】 ・レジでバーコードを読み取り（POSシステム）→（売れた商品の数・日時） ・レジでの清算時入力　→（性別・年齢） ・ポイントカード，アプリ　→（性別・年齢・住所） インターネットを使って本部へ情報が送られる。 【情報の生かし方】 <店> ・売れた商品・過去の情報・天気・イベント情報などを活用して，専用のタブレット機械で本部へ発注する。 <本部> ・発注情報から，工場へ商品を発注する。 ・各店から集めた大量の情報を基に分析し，商品開発する。 【本部に情報を集めるメリット】 ・情報を活用することで，無駄なく発注できる。 ・客が求めている商品の配置，商品開発する。 店：売上が上がる。 客：満足する。便利になる。	**【研究内容２－（１）】** GTとして校区内のセブンイレブン那加不動丘店の店長の方に来ていただくことで，関心や課題追究意識を高める。また話のときは，情報活用が分かる店舗内での動画を活用することで，視覚的に情報が分かるようにする。 **【研究内容２－（１）】** 本部に情報を集める意味を学習した後，第3学年での販売の学習をつなげて，セブンイレブン不動丘店の店長が経営している他の店舗での品揃えの違いについて考える。情報を活用して，店舗の場所によってもお客さんの願いに合わせた店づくりが行われていることを理解する。
深める	**5　違う店舗の写真を見て，なぜ品揃えが違うのか話し合う。** ・場所が違うと，来るお客さんも違う。 ・地域の人たちのニーズに合った品ぞろえをしている。 情報を活用してお客さんの願いに合わせた店づくりをしている。	**【研究内容２－（２）】** 振り返りは，単元を通して毎時間の記録を学習支援ソフトの1枚のテキストにまとめていく。クラス全員の振り返りを誰もが見ることができるように共有していくことで，仲間からも多くの気付きを得られるようにする。
確かにする	**7　本時の学習を振り返る。** 予想した通りコンビニエンスストアでは，POSシステムやポイントカードを使って，売れた商品の数やお客さんの情報を集めていた。またそのたくさんの情報を本部に集めることで，商品を発注したり，お客さんの欲しい商品開発をしたりすることに生かしていることが分かった。 コンビニエンスストアは，情報を活用することで，地域に合わせた商品を揃えたりして，店は売り上げを伸ばし，また私たちの欲しいものをコンビニエンスストアでいつでも購入することができるようになって便利になっていることがよく分かった。次は商品が時間通りに届いているしくみについてよく分からなかいので調べていきたい。	【評価規準】 ノートやタブレットの振り返り内容から，コンビニエンスストアの商品販売に集めた情報を生かしていることを理解し，それは，私たちの生活の向上にもつながっていることを理解している。 (知識・技能)

６年１組 社会科学習指導案

１　単元名　江戸幕府と政治の安定

２　単元について

本単元は学習指導要領【第６学年】の内容（２）ア（キ），イ（ア）を受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○江戸幕府の始まり，参勤交代や鎖国などの幕府の政策，身分制を手掛かりに，武士による政治が安定したことを理解することができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○江戸幕府の始まり，参勤交代や鎖国などの幕府の政策，身分制を関連付けたり，総合したりして，江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え，適切に表現することができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○江戸幕府の始まり，参勤交代や鎖国などの幕府の政策，身分制について，予想や学習計画を立てたり，学習を振り返ったりして，主体的に学習問題を追究し，解決することができる。

この単元では，豊臣秀吉の死後，関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が開いた江戸幕府が，どのように政治を安定させたのかということを学ぶ。江戸幕府による支配の仕組みは，参勤交代や身分制，キリスト教の禁止から始まる鎖国など様々な社会的事象をつなげることで全体像を理解することができる。また，この単元の学習は，歴史上の政治的主体がどのような政策によって政治を安定させてきたのかということを考察する際の視点を習得するという意味において，他の歴史学習にもつながるものであると言える。例えば，幕府がキリスト教を禁止したということは，政治を安定させるために宗教に関する政策は重要な検討課題であったことを示している。そしてこれは，他の時代や場所でも共通している。

本学級の児童は，資料から事実に気付いたり，その事実を基に考えを広げたりすることはできる。その一方で，社会的な見方・考え方を働かせながら資料を読み取ることや自ら既習の社会的事象と比較したり，社会的事象同士を関連付けたりして考えることには弱さがある。本校の研究主題である学びをつなげるための手立てによって，自ら学習を深める力を身に付けさせたい。

３　研究にかかわって

全６時間で構成する本単元では，江戸幕府による支配体制の確立について，武家諸法度による武士の統制，身分制による社会の安定の順で学習を進めていく。第５時にあたる本時では，幕府のキリスト教禁止の取組から始まる鎖国について学んでいく。

研究内容１－（１）
他の学習や生活と学びがつながる学習活動の設定
【資料から読み取ったことを仲間と交流する学習活動】

各単位時間において，個人追究や全体交流の他に，交流の相手を自分で決め，資料から読み取ったことを伝え合う時間を設定する。この手立てには二つの目的がある。一つ目は，資料から読み取ったことを仲間に伝えようと言葉にすることで，自分自身の理解を確かめることである。二つ目は，本時の課題について様々な視点から考えられるようにすることである。児童によって興味深いと感じる資料やどの政策が重要だったのかという判断は異なる。これらを互いに交流することで，学習内容の理解を深められるようにしたい。

研究内容２－（１）
発問・意図的な価値付け
【既習内容とつなげる発問と価値付け】

児童は本時までの学習で，ヨーロッパ人の来航以来，キリスト教が広がっていったことや豊臣秀吉がキリスト教を禁止したことを学習している。これらの事実と江戸時代までにキリスト教信者が増加していたことをつなげて，江戸幕府がキリスト教をどのように禁止したのかという本時の課題を必然的に設定できるようにする。

また，江戸幕府が行った具体的な政策を資料から読み取った後に，幕府が外国との交流をやめなかった理由を問う。この発問により，貿易が多くの利益をもたらしてきたこととつなげて，貿易の利益を守りながらキリスト教を禁止するという幕府のねらいを理解できるようにする。

研究内容２－（２）
単元・一単位時間での終末の在り方
【初めて知ったことや考えが変わったことの記録】

自分が初めて知ったことやこれまでの考えと変わったことを振り返ることで自らの学びを客観的に捉えることができる。そこで，カードを用いて，一目で毎時間の振り返りの記録を見られるようにする。

4 単元指導計画 ○ねらい ［　　］単位時間の学習後の子どもの意識

単元名 江戸幕府と政治の安定	単元の学習前の児童の意識 江戸時代という名前は聞いたことがあるけど，詳しくは知らない。豊臣秀吉が亡くなったことによって，また武士による争いの世の中になるのだろうか。

第１時　徳川家康と江戸幕府（主体的に学習に取り組む態度）
○江戸幕府による大名の配置に着目し，徳川家との関係が遠い大名ほど江戸から遠くに配置されていることに気付き，他にも江戸幕府が政治を安定させるために行ったことに興味をもつと共に単元の見通しをもつことができる。

江戸幕府は，全国の支配をどのように始めたのだろう。

全国で争いが起こっていた時代が終わり，江戸幕府が始まった。政治を安定させるためには大名の配置だけではなく，武士や他の人々を従える仕組みがあったはずだ。

【学習問題】
江戸幕府は、どのようにして力を強め政治を安定させたのだろう。

第２時　将軍による支配の安定（知識・技能）
○武家諸法度による幕府と大名との関係や取りつぶされた大名の数の変化に着目し，大名は幕府の命令には従わなければならないとされていたことや家光の頃までに多くの大名が取りつぶされたことに気付き，江戸幕府の支配が確立したことを理解することができる。

徳川家康が作った支配の仕組みはどのように受け継がれたのだろう。

徳川家康が開いた江戸幕府は順調に政治の仕組みを整えていったことが分かった。武家諸法度で，あらかじめ大名が幕府の命令に従うことを決まりにしていたのは，うまいやり方だったと思う。決まりをつくるということは今までに習った人物とも似ている。

第３時　大名の取りしまりと参勤交代（知識・技能）
○参勤交代による各大名の移動距離や幕府の命令による大名の負担に着目し，江戸幕府は各大名が力を持てないようにしていたことに気付き，江戸幕府が全国の大名を従えることができたことを理解することができる。

幕府はどのように多くの大名を従えていったのだろう。

江戸幕府が参勤交代の仕組みをつくった理由が今までの授業では分からなかったけど，大名が負担する費用や労力に注目することで分かってきた。他にも大名が力を付けないための仕組みを作っていたから，江戸幕府は力を強めることができたのだと感じた。大名以外の普通の人々も幕府に従うような仕組みがあったのだと思う。

第４時　人々のくらしと身分（知識・技能）
○武士・町人・百姓など江戸時代の身分ごとの人口の割合やくらしの様子を比較することを通して，身分によって住む場所が分けられていたことや武士は多くの百姓から税を納めさせていたことに気付き，身分ごとに異なるくらしをしていたことを理解することができる。

江戸時代の人々は身分に応じて，どのようにくらしていたのだろう。

江戸幕府は，人々を武士や百姓，町人などの身分に分けたことが分かった。幕府の取組は，豊臣秀吉が検地と刀狩によって武士と農民を分けようとしていたことと似ていると思う。

第５時（本時）　キリスト教の禁止と鎖国（知識・技能）
○禁教令の内容や貿易相手の変化などに着目したり，これらの政策と江戸幕府のねらいを関連付けたりすることによって，江戸幕府はキリスト教を禁止しながら貿易の利益を守ろうとしていたことに気付き，江戸幕府による政治がより安定したことを理解することができる。

江戸幕府は，どのようにキリスト教が広がることを止めようとしたのだろう。

江戸幕府は禁教令や絵踏みを行って，キリスト教を禁止したことが分かった。キリスト教が広がっていくことを止めながら，貿易による利益を守るための政策はよく考えられていると思った。国の政治に宗教が関わってくるのはいつの時代にも共通していると思う。

第６時　まとめ（思考・判断・表現）
○幕府の政治やしくみについて調べてきたことを整理し，当時の人々の立場になって表現することができる。

江戸幕府が行った政治についてまとめ，当時の人々が幕府のことをどのように思っていたのかを考えよう。

単元の学習後の児童の意識
徳川家康が開いた江戸幕府は武家諸法度やその中の参勤交代など大名を支配する仕組み，身分制など武士を中心とした社会を作る仕組み，キリスト教禁止によって江戸幕府の力をより強くしたことなど，たくさんの取組によって力を強め，政治を安定させることができたことが分かった。どうして，江戸時代は終わりを迎えたのだろう。

5　本時のねらい

禁教令の内容や貿易相手の変化などに着目したり，これらの政策と江戸幕府のねらいを関連付けたりすることによって，江戸幕府はキリスト教を禁止しながら貿易の利益を守ろうとしていたことに気付き，江戸幕府による政治がより安定したことを理解することができる。

6　本時の学習展開（5/6）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　江戸幕府がキリスト教を禁止していたことを知る。** ・キリスト教の禁止は豊臣秀吉も行っていた。 ・グラフから，キリスト教信者が増え続け，江戸幕府が始まった頃には信長や秀吉の頃よりも多かったことが分かる。 ・これだけ多くのキリスト教の信者がいるのに，どうやってキリスト教がこれ以上広がることを止めたのだろう。 **2　本時の学習課題を設定する。** 江戸幕府は，どのようにキリスト教が広がることを止めようとしたのだろう。	【研究内容２－（１）】 ・ヨーロッパ人の来航以来，多くの人々がキリスト教の信者になったという既習内容と江戸幕府によるキリスト教の禁止という事実をつなげ，本時の課題を生み出す。 【導入資料】 ・江戸幕府の政治に関する年表 ・キリスト教信者数のグラフ 【資料１】禁教令 【資料２】貿易相手の変化 【資料３】絵踏み
考える	**3　予想する。** ・これ以上キリスト教の信者が増えないように，ヨーロッパ人が入ってくることを禁止したのだと思う。 ・すでに国内にいるキリスト教の信者については，見付け出して処罰したのだと思う。 ・仏教を信じさせるようにしたんじゃないかな。 **4　資料から課題について考える。（個人→全体）**	【研究内容１－（１）】 ・交流の相手を自分で決め，資料から読み取れたことを伝え合う活動を設定する。
深める	・江戸幕府は禁教令を出すことによって，キリスト教を禁止することを知らせたのだけど，最初はあまり効果がなく信者は減らなかったみたいだ。 ・島原・天草一揆が起きた時には幕府は約12万人もの大軍を送っている。これだけの大軍を送るということは，それだけ徹底してキリスト教をなくそうとしていたことが分かる。 ・江戸幕府は貿易を制限する法令を出して，キリスト教の宣教師がこれ以上入ってくることを止めようとしたのだと思う。 ・長崎では，お正月の行事として，キリストが描かれた絵を踏ませる絵踏みという行事が行われていた。これによってキリスト教の信者を見つけ出そうとした。処罰されるのが嫌でキリスト教を信じることをやめた人もいるのではないかな。 ・絵踏みには，国内にいるキリスト教の信者の数を減らしていくという意味があったのだと思う。 **5　江戸幕府の政策のねらいを理解する。**	【研究内容２－（１）】 ・【資料１】は事象や人々の相互関係，【資料２】は位置，【資料３】は位置や起源など社会的な見方・考え方を働かせて追究する姿を価値付ける。 【研究内容２－（１）】 ・幕府が貿易をやめなかった理由を問い，貿易が利益をもたらしたこととつなげ，幕府のねらいを理解できるようにする。 【評価規準】 江戸幕府は，キリスト教を禁止しながら貿易の利益を守り，力を強め政治を安定させていったことを理解している。（知識・技能）
確かにする	・貿易の利益はこれまで通り守りたかった。 ・幕府が力を強めるためには，外国の進んだ技術や情報を手に入れることも大切だった。 **6　本時の学習をまとめる。** 江戸幕府は禁教令を出すと共に，貿易の制限や絵踏みを行うことで，キリスト教を禁止しながら貿易の利益を守ったり外国からの情報を手に入れたりして，幕府の力を強め，政治を安定させていった。	【研究内容２－（２）】 ・振り返りカードを使い，本時の学びによって自分の認識がどのように変わったのかを実感できるようにする。

３年２組 算数科学習指導案

１　単元名　大きい数のわり算，分数のわり算

２　単元について

本単元は学習指導要領【第３学年】の内容Ａ（４）ア（オ），Ａ（６）ア(ア)を受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○数のまとまりに着目し，簡単な場合の除数が１位数で商が２位数の除法の計算の仕方について理解することができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○簡単な場合の２位数÷１位数の計算の仕方について，既習の計算の仕方や図を用いて，被除数の数の構成に着目して考え，説明することができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○日常生活において，あるものを何人かで等しく分ける等の場面で，除法を活用して問題を能率的に解決することができる。

本単元では，既習を基に，２位数÷１位数の計算の仕方を考える。除法は，第３単元で除法の意味や乗法九九を１回適用してできる計算方法について学習している。また，前単元では数の構成に着目し，２位数×１位数の計算の仕方を学習している。

その既習を基に，被除数を，１０を基にとらえたり，位ごとに分けたりして計算できることを目標としている。そのために，まず導入では，テープ図と数直線を合わせた図を基に，一人分はテープ図のどの部分にあたるのかを確認しながら，一人分を求める演算決定をしていく。テープ図と除法の式を関係付けることは，立式の根拠となるだけでなく，本時の後にある第３・４時の分数と除法を関係付ける学習にも繋がるため，丁寧に扱いたい。

また，本時のような６０÷３のような被除数が何十の場合は，「１０が○個」というように単位を基に考えることができるようにしていく。１０を基にすることで既習の一位数同士の除法に帰着して計算することができる。このような１０を基にする考え方は第１学年から繋がっている。第２時では，被除数が６０から６９に変わるが，位ごとに分けて計算するという既習の解決方法を活用させたい。今後の学習でも，既習の計算方法や考え方を基に，それらを活用して解決できるよう指導していきたい。

３　研究にかかわって

研究内容１-（１）他の学習や生活と学びがつながる学習活動の設定

【既習内容と本時の内容を比較し、共通点や相違点を見付けて共有する学習活動】

本時の学習内容は、乗法九九を１回適用してできる除法計算や、前単元にて既習した２位数×１位数の計算で用いた数の構成が、問題解決をおもに支える。そこで、導入場面では、乗法九九を１回適用してできる除法計算に取り組む。本時の問題を把握して立式した後に、既習内容と本時の内容を丁寧に比較し、どちらも除法であるという共通点や、１回の乗法九九で求答できないという相違点を見付けて課題設定を行う。

研究内容２-（１）発問・意図的な価値付け

【既習内容に基づいて考えようとする姿の価値付け】

見通しをもつ場面では、前単元にて学習した２位数×１位数の計算で用いた「１０を基にする」という数の構成学習を想起した児童を価値付ける。その際、教科書の本学習内容に関わるページを活用して、想起の手助けを行う。どの児童も「１０を基にする」と自分の考えがもてそうだと見通しをもった状態で個人追究に入りたい。個人追究の時間には、１０を基にした図をかいたり、乗法九九で求答できる除法の式に変化することに気付いたりした児童を認め価値付ける。

全体交流では、それぞれの考えの共通点を見付け出す発問をし、どちらも「１０を基にして考える」と既習の学習に帰着していることに気付かせていきたい。

研究内容２-（２）単元や一単位時間での終末の在り方

【既習内容とのつながりや、学びの変容を実感できる振り返り】

授業の終末では、本時学習した「１０を基に考える」と乗法九九で答えが見付けられることをペアで交流しながら確認し、実感できるようにする。その上で、次時の内容に触れ、本時との違いを見付けることで興味関心を高め、次時に繋げる。

また、ペア交流で仲間と関わりながら課題解決できる喜びを感じさせ、前向きな気持ちで次時に向かうことができるようにしたい。

4　単元指導計画（全４時間）〈評価規準〉●数学的な見方・考え方

単元名　大きい数のわり算、分数とわり算

前単元までに身に付けた既習内容

1年「10より大きなかず」	2年「分数」	3年「わり算」
・10ずつまとめて数えること ●10を単位とした数の見方	・元の大きさを同じ大きさに分けること ●具体物や図から数量関係を捉える	・ある数量を同じ数ずつ分けること ・乗法九九を使って答えを見付けること ●具体物や図から数量関係を捉えて立式する

単元の課題

簡単な場合について、除数が一位数で商が二位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、具体的な場面で除法や分数を用いて活用することができる。

【除法や分数に関わる数学的活動を通して，育成したい資質・能力】

・簡単な場合の２位数÷１位数の計算の仕方を知ること。
・計算の意味や計算の仕方を考え、計算について成り立つ性質を見出して活用し計算を工夫したいり、計算の確かめをしたりすること。
・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさの表し方として分数を用いること。
●数の構成に着目し，計算の方法を考えること。

【第１時 大きい数のわり算】 本時

＜思考・判断・表現＞

・60枚の色紙を、３人で同じ数ずつ分けます。１人分は何枚になりますか。

何十÷いくつの計算のしかたを考えよう。

●式を図で表し、説明する。【図式化】

何十÷いくつの計算は、10 のまとまりで考えると、いくつ÷いくつの計算で答えがもとめられる。

【第２時 大きい数のわり算】

＜思考・判断・表現＞

・69枚の色紙を、３人で同じ数ずつ分けます。１人分は何枚になりますか。

何十何÷いくつの計算のしかたを考えよう。

●式や図で表し、説明する。【図式化】

何十何÷いくつの計算は、何十と何のように、位ごとに分けて考えると、計算できる。

【第３時 分数とわり算】

＜知識・技能＞

・赤色のテープの長さは 80cm です。80cm の 1/4 の長さは何 cm ですか。

80cm の 1/4 の長さを、計算でもとめる方法を考えよう。

●絵、図を使って答えを求める。【類推的】

80cm の 1/4 の長さは、80cm を4等分した１こ分の長さだから、80÷4 の式で求めることができる。

【第４時 分数とわり算】

＜知識・技能＞

・青色のテープの長さの 1/4 の長さと、黄色のテープの 1/4 の長さをくらべましょう。

長さがちがう理由を考えよう。

●図や具体物を使い理解する。【記号化】

もとの長さがちがうから、その 1/4 の長さもちがう。

本単元に関連する学習内容

３年「分数」
・単位量に満たない端数部分の大きさを分数を用いて表す
・「真分数」「仮分数」「帯分数」の意味
●もとの大きさに着目して、分数を使った大きさの表し方を考える。【類推的】

４年「わり算の筆算 わる数が１けた」「わり算の筆算 わる数が２けた」「分数」「小数のかけ算とわり算」

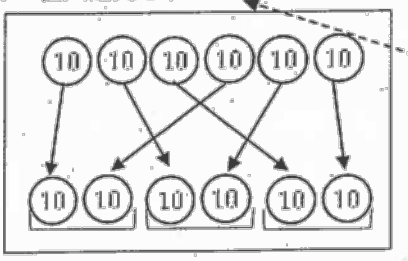
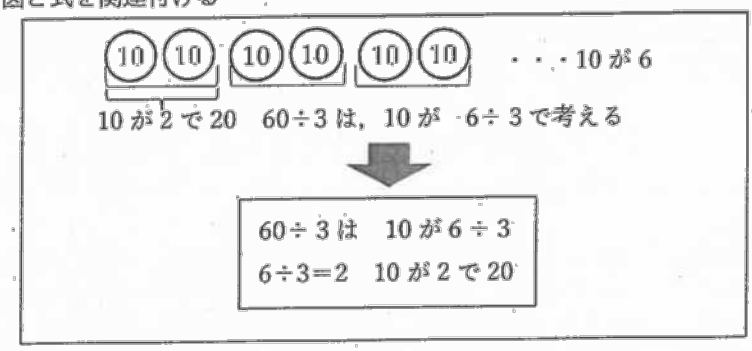
５年「小数のかけ算」「小数のわり算」「偶数と奇数、倍数と約数」「分数と小数、整数の関係」

６年「分数×整数、分数÷整数、分数×分数」「分数÷分数」「分数の倍」

5　本時のねらい

何十÷いくつの計算の仕方を，既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え，説明することができる。

6　本時の展開（1／4）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	1　既習の１位数÷１位数のわり算を確認する ・６÷３＝２ 2　問題を捉えて立式する ６０まいの色紙を，３人で同じ数ずつ分けます。 １人分は何まいになりますか。 ・６０枚を３人で同じ数ずつ分けた時の１人分が知りたいから わり算の式になるかな。 ・６０÷３ ・わられる数が何十になっていて九九で答えが見付けられない。 3　本時の学習課題を設定する 何十÷いくつの計算のしかたを考えよう。	【研究内容１-（１）】 既習内容と本時の内容を比較し，共通点や相違点を見付けて共有する学習活動を位置付け，既習内容の一位数÷一位数の除法では求答できないことを確認し，課題設定を行う。
考える	4　見通しをもつ ・図をかいて考えてみよう ・式で考えるよ 5　個人追究をする  ・１０のまとまりで考えると ６÷３＝２ ２は１０のまとまりが２こという意味なので答えは２０。	【研究内容２-（１）】 既習した学習を想起し，１０を基にした図や式で考えようとする児童を価値付け，見通しをもたせる。 【研究内容２-（１）】 １０を基にした図をかいて考えることで，既習の除法になることに気付いたり，１０を基にすると，乗法九九で求答できる除法に変化したりすることに気付くことができた児童の姿を価値付ける。
深める	6　全体交流をする ・図と式を関連付ける  ・・・10が6 10が２で20　60÷３は，10が　6÷３で考える 60÷３は　10が６÷３ 6÷3＝2　10が２で20	【研究内容２-（２）】 授業の終末では，本時の学びを振り返るとともに，次時の学習との相違点について触れて次時へ繋ぐ。
確かにする	7　まとめをする 何十÷いくつの計算は，１０のまとまりで考えると， いくつ÷いくつの計算で答えがもとめられる。 8　練習問題に取り組む 全体で説明の仕方を確認する。 ４０÷２ 隣同士説明し合う。（ペア交流） ８０÷４　　９０÷３　　７０÷７ 9　次時の学習を確認する ６９÷３	【評価規準】 ＜思考・判断・表現＞ 何十÷いくつの計算の仕方を，図や式を用いて，被除数の数の構成に着目して考え，説明することができる。

４年２組 理科学習指導案

１　単元名　とじこめた空気と水
「とじこめた水」

２　単元について

本単元は学習指導要領【第４学年】の内容２Ａ（１）ア（イ），イを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○閉じ込めた空気を圧すと，体積は小さくなるが，圧し返す力は大きくなることや閉じ込めた空気は圧し縮められるが，水は圧し縮められないことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けている。
【思考力，判断力，表現力等】
○空気と水の性質について追究する中で，既習内容や生活経験を基に，空気と水の体積や圧し返す力の変化と圧す力との関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現している。
【学びに向かう力，人間性等】
○空気や水の性質について追究する中で，主体的に問題解決しようとしている。

本単元では，体積や圧し返す力の変化に着目して，それらと圧す力とを関係付けながら調べる活動を通して，空気や水の性質について調べていく。そして，既習内容や生活経験から根拠のある予想，仮説を発想し，実験に取り組ませていきたいと考えている。

本単元は，目に見えないものの力に気付き，体感したことを自分なりに言葉や絵にしながら交流する楽しさがある一方，力は目に見えないため，実体を捉えにくいと考える。そのため，実験を通して起こった変化がどんな意味をもっているのか，事象と変化を関係付けることが必要だと考える。また，タイヤや豆腐など自分の生活の中で使われているものと，今回の学習内容とつながっていることを実感するようにしたい。

自分の考えを伝えることや２つのことを関係付けることを苦手とする児童が多いため，既習内容の振り返りや考える視点を与えるなどの手立てを講じたい。

また，自分の考えを表現する方法として，言葉だけでなく図や絵，具体物などを使いながら伝えるようにしていきたい。

３　研究にかかわって

研究内容１－（１）他の学習や生活と学びをつなげる学習活動の設定

【根拠ある仮説を立てるための既習内容の振り返り，事象提示】

本時では，水の性質についての学習を行う。予想することはできるが，根拠をもって仮説を立てることに苦手を感じる児童もいるため，様々な視点から考えられるような手がかりを講じていきたい。そのため，前時までに学習した空気と比較して考えられるように，閉じ込めた空気の性質について振り返る時間をつくり，仮説を立てるための手がかりになるようにしたい。

また，事象提示では，空気の実験と同じ教材を用いて事象提示を行うことで，空気についての学習と比較しやすくし，実験や考察場面でも，空気についての学習とつなげて考えられるようにしたい。

研究内容２－（１）発問・意図的な価値付け

【理科の「見方・考え方」を意識的に働かせるための既習内容や生活経験とつながるような発問、価値付けの工夫】

予想の時間には，圧す力と体積の関係を意識できるように，「圧すと水の体積は小さくなるのか」と発問することで，「小さくなる」か「小さくならない」かのどちらかで自分の考えをもち，見通しをもって実験に取り組むことができるようにする。そして，理科の見方・考え方を働かせて考えられるように，机間指導の際に，予想の根拠を考えさせ，考えがもてない児童には，既習内容や掲示物を振り返らせるなどの指導援助を行っていきたい。

また，見方・考え方を意識して働かせる児童もいるが，既習内容や生活経験とつなげることが苦手な児童もいるため，交流の際には児童の意見に対して，見方・考え方のシートを使い，価値付けしていくことで誰もが見方・考え方を働かせながら，自分の考えを深められるようにしていきたい。

また，実際にスポンジやボール，スライムなどの物を使うことで，水の様子を粒子の見方でも考えられるようにしていきたい。

4　単元指導計画（全６時間）

単元名
とじこめた空気と水
（A 物質・エネルギー）

単元学習前の児童の意識（生活経験や既習内容から）

（第３学年）
・風やゴムの力は，物を動かすことができる。
・風やゴムの力の大きさを変えると，物が動く様子も変わる。
・物は形が変わっても重さは変わらない。

（第４学年）
・水は空気中に出ていく。
・空気中に出ていく時に目に見えない姿になる。

単元の目標
体積や圧し返す力の変化に着目して，それらと圧す力とを関係付けて，空気と水の性質を調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察，実験などについての技能を身に付けるとともに，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育てる。

【単元を通して働かせたい見方・考え方】質的　実体的　関係付け　比較　条件

第１時　「とじこめた空気」　【思考・判断・表現】
○袋に空気を入れておすとどうなるのかな。
・フワフワしている。
・つぶせる。
・手を離すと，もどる。
○てっぽうで玉を飛ばしてみよう。
・玉が２つのほうがたくさん飛ぶ。
・玉が１つだと全然飛ばない。

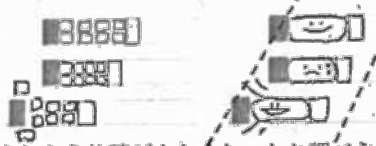
前の玉はどうして飛ぶのだろうか。

・空気がおしているんじゃないかな。
・空気がつぶされて，限界になると出ていくと思う。

第２，３時「とじこめた空気」　【知識・技能】

空気の体積はおすと本当に小さくなるのだろうか。

・前の時間に袋の中の空気は小さくなったから，つつの中の空気も小さくされているのではないか。
・空気でっぽうの中の空気が小さくなっていた。
・わたみたいにふわふわしているから，小さくなると思う。
・ボールのように，やわらかくて小さくなると思う。



○どうしたら体積が小さくなったか調べられるかな。
・おしても空気が出ないものに空気を入れて調べてみよう。
・おせた。
・おした分だけトランポリンみたいに戻ってきた。
・最後まではおせない。
・おすとどんどん固くなって，おすほど力が必要になる。

空気はおすと体積が小さくなる。

第４時　「とじこめた空気」【主体的に学習に取り組む態度】

つつの中の玉はどうして飛ぶのだろうか。

・ボールみたいな感じで，小さくなるけどなりすぎると元にもどろうとする。
・ばねみたいに，縮まって出ようとするから，前の玉が飛び出る。

第５，６時　「とじこめた水」【本時】【思考・判断・表現】
○空気をとじこめておすとどうなったかな。
・空気は小さくなって，限界になると玉をおした。
・おせばおすほど，空気の力が強くなった。
○水を入れて，棒をおしてみるとどうなるだろう。
・空気と同じでおせると思う。
・水の体積も小さくなるのじゃないかな。
・空気よりはおせないのじゃないかな。

水もおすと体積は小さくなるのだろうか。

・空気は体積が小さくなったから，水もやわらかいし小さくなると思う。
・水は目に見えるから小さくならないのじゃないかな。
・ペットボトルはおせるから，小さくなると思う。
・水風船も，小さくなるから，水も小さくなると思う。
・空気と同じように，水もとじこめて実験してみよう。
・水はどれだけおしても，変わらない。

水はおしても小さくならない。

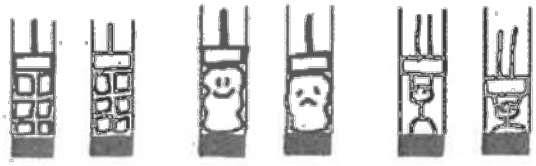
○水でっぽうは空気と同じように飛ぶかな。
・空気よりは飛ばない。
・水は体積が小さくならなかったから，飛ばないと思う。
○生活の中で空気と水が生かされていることを知り，どうして水や空気が使われているか考える。
・空気が使われているときと，水が使われているときがあるんだ。
○単元の振り返りを行う。
・水と空気を比べて考えることができた。
・風船で遊んだときのことから，予想をすることができた。
・水のすがたのときのように，空気や水を図を使って考えることができた。
・空気と水で全然ちがうなんてびっくりした。
・閉じ込めた空気の量を増やすと，もっと玉が飛ぶのか調べてみたい。

本単元と他の単元とのつながり
第４学年　「自然のなかの水のすがた」「物のあたたまりかた」「物の体積と温度」「水のすがたと温度」
第５学年　「物のとけ方」
第６学年　「水溶液の性質とはたらき」「物の燃え方と空気」「生き物のくらしと環境」
中学校　第１学年「身の回りの物質」　第２学年「物質の成り立ち」　第３学年「化学変化とイオン」

5　本時のねらい

閉じ込めた水を圧したときの体積の変化について，既習内容や生活経験を基に，根拠のある予想を発想し，表現することができる。　【思考・判断・表現】

6　本時の学習展開（5，6／6）

	学習の過程	研究にかかわって
つかむ・考える 本時	1　事象を提示する。 ○ピストンを圧すとどうなるだろう。 ・空気と同じで，圧せると思う。 水もおすと体積は小さくなるのだろうか 2　仮説を立てる。 ・体積は小さくなると思う。 ・わけは，空気は小さくなったから，水も同じだと思うから。 ・水風船で遊んだ時に，圧してみたらつぶせたから。 ・水もやわらかい感じがするから小さくなると思う。 ・体積は小さくなるけど，空気よりはならないと思う。 ・わけは，水もやわらかいけど，空気の方がふわふわしているから。 ・体積は小さくならないと思う。 ・わけは，空気は目に見えないけど，水は見えるから。 ・水をたたくと固い感じがするから。 ・空気と同じで下に圧せると思う。 ・でも一番下までは圧せないと思う。 ・どんどん固くなると思う。 ・ぼうは少し圧せると思う。 でも，空気よりも圧せる分は小さい。 ・ぼうを圧しても，ぼうは動かないと思う。 <水のイメージを交流する> ・空気は，わたのイメージだけど水はスポンジみたいにちょっと固い感じがするから，少しだけ体積は小さくなると思う。 ・空気と似ててやわらかい感じだから，わたみたいに小さくなると思う。  3　実験を行う。 ・空気と同じように水を筒に入れて調べてみよう。 ・空気が入らないように気をつけないと。 ・水はどのくらい入れようかな。 ・空気はやわらかかったのに，水は固いね。 ・空気と違って圧せない。 ・もっと力を入れて圧してみよう。	【研究内容Ⅰ-(Ⅰ)】 ・閉じ込めた空気は，圧すと体積が小さくなることを確認することで，水を圧す力と体積の変化について関係付けて考えることができるようにする。また，学習内容を掲示することで，空気と比較できるようにする。 ・空気での実験と同じ教材を使って，事象提示をすることで，前時の学びとつなげて考えることができるようにする。 【研究内容2-(Ⅰ)】 ・予想では，机間指導の際に，根拠を問うことで，生活経験と関係付けたり，前時の学習と比較したり，「理科の見方・考え方」を働かせて事象を考えたりすることができるようにする。 ・交流の際にはシートを使い，「見方・考え方」を意識して考えられていることを価値付けることで，質的・実体的な視点で捉えることができるようにする。 ・水の様子を考える手がかりとなる綿やボールなどを用意することで，物や図，体などでイメージ圧し，水を様々な見方で考えることができるようにする。 【研究内容Ⅰ-(Ⅰ)】 ・体積が小さくなると考える児童とそうでない児童とを学習支援ソフトの提出機能を使って，把握できるようにすることで，仲間との交流の際に，水の性質について様々な視点から考えることができるようにする。 ・予想別の班で実験圧することで，自分たちの予想が検証できるように，仲間と工夫しながら実験を行うことができるようにする。
深める・確かにする	4　実験の結果を交流する。 ・どれだけ力を加えても，水は圧せなかった。 5　考察を行う。 ・水はどれだけ圧してみても体積は小さくならないことがわかった。 ・空気と水は，似ていない。 ・どうして空気は体積が小さくなるのに，水はならないのだろう。 6　まとめる。 水は，どれだけおしても体積は小さくならない。 ○筒に水を閉じ込めて，玉を飛ばす。 ・水を閉じ込めた時は，空気と違って玉は飛ばない。 ○生活の中の空気と水の利用について知る。 ・ボールは，中の空気の体積が小さくなって戻るから，当たっても痛くないんだ。水は，強いから何かを守ることができるんだ。 ○単元の振り返りを行う。 ・空気と水を比べて考えることができた。 ・水のすがたのときみたいに図などを使って，考えることができた。 ・空気と水で，玉の飛び方が全然ちがうなんてびっくりした。	【評価規準】 閉じ込めた水を圧したときの体積の変化について，既習内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現している。 【思考・判断・表現】

3年1組 音楽科学習指導案

1　題材名　せんりつの重なりをかんじとろう

〈本時の教材〉

「メリーさんのひつじ」

2　題材について

本題材の題材目標は，以下のように設定されている。

【知識及び技能】

○曲想及びその変化と，音色や旋律，音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わり，楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに，思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの歌声や楽器の音，副次的な旋律，伴奏を聴いて，声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。

【思考力，判断力，表現力等】

○音色，旋律，音の重なり，反復などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもったり，曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。

【学びに向かう力，人間性等】

○旋律の重なりに興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽，鑑賞の学習活動に取り組み，様々な音楽に見られる旋律の重なりに親しむ。

本題材では，歌声や楽器の音が重なり合うことで生まれる響きを感じ取り，それらを基に，互いの歌声を聴き合いながら歌ったり，旋律や楽器の音が重なり合う面白さを味わいながら鑑賞したり合奏したりする。

短い音型が繰り返されるオスティナートが加わった「かね」を鑑賞し，旋律の重なりに注目できるようにする。「歌おう声高く」では，“ランランラン”の音型を繰り返すことで，簡単な二部合唱の体験をし，互いのパートの声を聴きながら声を合わせて歌う技能を育てる。

そして，本教材「メリーさんのひつじ」では，鑑賞教材と歌唱教材で学習したことを踏まえ，旋律の重なりが生み出す響きの面白さを感じ取りながら，二部合奏の楽しさに気付くことができるようにする。

3　研究にかかわって

研究内容 1-(1)　他の学習や生活と学びがつながる学習活動の設定

【前時までに学んだことを振り返り，本時の学習内容につなげる】

本題材の第3時までに，「かね」を鑑賞したり，「歌おう声高く」の簡単な二部合唱をしたりすることで，旋律の重なりに注目できるようになっている。また，「歌おう声高く」で，旋律の重なりがきれいに聴こえるためには，互いの声をよく聴いて，歌い方を工夫するとよいことを学習している。児童は，互いのリズムを合わせること，音量のバランスを調整すること，響きのある柔らかい声で歌うことを意識している段階である。

前時では，「メリーさんのひつじ」を聴き，リコーダーの音色が重なった心地よさを感じ，自分もよりよい演奏ができるようになりたいと意欲を高めている。本時の導入で，「歌おう声高く」を歌い，旋律の重なりを意識した歌い方を想起できるようにする。また，教師が「メリーさんのひつじ」の旋律の重なりがきれいに聴こえる例とそうでない例を示し，リコーダーにおいても互いの音をよく聴くことが大切であることに気付かせ，本時の課題につなげていく。

研究内容 2-(1)　発問・意図的な価値付け

【グループ交流で観点に沿って意見を交流し，協働的に学んでいる姿を価値付ける】

ペアやグループで演奏を聴き合う観点を示し，演奏をどのように聴くとよいか見通しをもつことができるようにする。そして，お互いの音をよく聴きながら，観点に沿って意見を交流し，演奏をよりよくしている姿を価値付ける。また，中間交流でどのように演奏したのかを問い，よい演奏の仕方を広め，その後のグループ交流につなげていく。

研究内容 2-(2)　題材・一単位時間での終末の在り方

【最初の演奏の録音と聴き比べ，振り返りを交流する】

録音を聴くことで，自分たちの演奏のよさや課題を客観的に捉え，本時の学びのよさを実感できるようにする。また，本時できるようになったことや分かったことを交流することで，次時で4拍子と3拍子を選び，自分で演奏を工夫していく学習につなげられるようにする。

4　題材指導計画（全６時間）

前学年(前題材)からのつながり

第２学年「ようすをおもいうかべよう」
歌詞の表す様子を想像しながら歌ったり，音楽が表す様子を思い浮かべながら聴いたりする。曲想に合わせて，歌い方や演奏の仕方を工夫する。

第３学年「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
旋律の音の上がり下がりや旋律の特徴の違いを感じ取りながら，歌ったり演奏したりする。旋律の音の上がり下がりや歌詞の内容，曲想に合わせた歌い方を工夫し，声の出し方や発音に気を付けて，曲の山を生かして歌う。

【第3学年】「せんりつの重なりをかんじとろう」

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と，旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑) ②知 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。(歌) ③技 思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。(歌) ④知 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。(器) ⑤技 思いや意図に合った表現をするために必要な，互いのリコーダーの音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器)	思① 音色，旋律，音の重なり，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌) 思② 音色，旋律，音の重なり，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。(鑑) 思③ 音色，旋律，音の重なり，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器)	態① 旋律の重なりに興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽，鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌・器・鑑)

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
旋律
音の重なり
旋律の中の音の重なりを意識して，表現したり味わったりする。

	曲	時	ねらい	評価の観点 知・技	思	態
鑑賞・歌唱	かね　歌おう声高く	1	「かね」と「歌おう声高く」を聴き，旋律の特徴や反復，強弱の変化，音の重なりなどの音楽の構造とのかかわりに気付くことができる。	①知鑑 ②知歌		態①歌・器・鑑
		2	「歌おう声高く」を聴き，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		思①歌	
		3	「歌おう声高く」で互いの歌声を聴き合いながら，二つの旋律を重ねて歌ったり，「かね」で曲や演奏のよさを見いだし，曲全体を味わって聴いたりすることができる。	③技歌	思②鑑	
器楽	メリーさんのひつじ	4	4拍子と3拍子の「メリーさんのひつじ」を聴き，リコーダーの音色や響きと演奏の仕方について気付くことができる。	④知器		
		5本時	ペアで二重奏する活動を通して，思いや意図に合った表現をするために必要な，互いのリコーダーの音や副次的な旋律を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。	⑤技器	思③器	
		6	「メリーさんのひつじ」の4拍子か3拍子を選び，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。			

「かね」で旋律の重なりがきれいに聴こえたよ。「歌おう声高く」と「メリーさんのひつじ」で，旋律の重なりがきれいに聴こえるように，演奏の仕方を工夫することができたよ。お互いの音をよく聴くときれいに演奏できるよ。友達といっしょに演奏するのは楽しいな。他にも旋律が重なっている曲はないかな。これからも，お互いの音をよく聴いて演奏したいよ。

学びのつながり

第4学年
「せんりつの重なりを感じ取ろう」
・パレードホッホー
・ファランドール
・オーラリー
・もみじ

第5学年
「音の重なりを感じ取ろう」
・小さな約束
・いつでもあの海は
・アイネクライネナハトムジーク
・弦楽器の仲間を知ろう
・愛のあいさつから

第6学年
「和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう」
・風の世界
・雨のうた
・「雨のうた」の和音で旋律づくり

中学校へ

5　本時のねらい

ペアで二重奏する活動を通して，思いや意図に合った表現をするために必要な，互いのリコーダーの音や副次的な旋律を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。

6　本時の学習展開(5/6)

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　「歌おう声高く」をパートに分かれて歌う。** ・声の大きさに気を付けて歌えたよ。 ・ブレスをそろえたよ。 **2　4拍子の「メリーさんのひつじ」をパートに分かれて階名唱したり，演奏したりする。** **◎リコーダーの演奏を録音する。** ・ちがう高さの音を重ねて歌うときれいだね。 ・低い音を出すときはやさしい息を入れるよ。 **3　教師の範奏を聴き，課題をつかむ。** ・二人の音がそろっていないよ。 ・音の大きさのバランスがよくないよ。 ・ブレスがそろっていないよ。 ・同じ高さで重なるところは，音をぴったりそろえたいよ。 ・ちがう高さの音で重なるところは，きれいに演奏したいよ。	**【研究内容 1-(1)】** ・本題材の既習曲を歌うことで，学習したことを想起し，本時の学習とのつながりをもつことができるようにする。 ・リコーダーの演奏が苦手な児童も音を合わせて演奏することに抵抗が少なくなるように，元の楽譜から音数を減らした楽譜も用意し，児童が選んで学習できるようにする。
考える	㋕お互いの音をよく聴いて，せんりつの重なりがきれいにきこえるようにリコーダーをえんそうしよう。 **4　ペアで演奏する。(曲の冒頭4小節)** **◎グループで演奏を聴き合ったり，録音して聴いたりする。** 話し方 わたしは＿＿＿に気を付けて演奏します。 聴く観点 ①拍にのっているか。 ②息の強さがちょうどよいか。	**【研究内容 1-(1)】** ・旋律の重なりがきれいに響いている良い例とそうでない例を聴き，リコーダーの演奏の仕方を工夫するとよいことに気付かせる。 **【研究内容 2-(1)】** ・ペア交流の観点を示し，拍や息の強さに着目して意見を交流し，協働的に学ぶ姿を価値付ける。
深める	・わたしは下のパートなので，音が大きくならないようにやさしく息を入れます。 ・拍にのって演奏していて，ぴったりそろって聴こえるよ。 **5　中間交流で，ペアの演奏を発表する。** ・音量のバランスが同じになるように，息を強く入れないように気を付けたよ。 ・低い音は，「トォ」といったタンギングをすると，きれいな音が出たよ。 **6　全体で二重奏をする。** **◎リコーダーの演奏を録音する。** ・最初よりきれいに演奏できたよ。	**【研究内容 2-(2)】** ・終末の振り返りで，最初の演奏と聴き比べながら，本時分かったことやできるようになったこと，次やってみたいことを確かめ，次時の学習につなげる。
確かにする	**7　本時の振り返りをする。** **◎最初の演奏の録音と聴き比べる。** ・拍にのって演奏すると、2つのパートの音がそろったよ。 ・友達の演奏する音をよく聴くと，そろったよ。 ・息をやさしく入れるときれいな音になったよ。 ・2つのパートがどちらもきれいに聴こえたよ。 ・次は，曲の最後まで演奏してみたいな。 ・次は，3拍子でも演奏してみたいな。	**【評価規準】** 思いや意図に合った表現をするために必要な，互いのリコーダーの音や副次的な旋律を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けている。 (知識・技能)

１年３組 音楽科学習指導案

１　題材名　せんりつで　よびかけあおう

〈本時の教材〉

「せんりつのよびかけっこ」

２　題材について

本題材の題材目標は，以下のように設定されている。

【知識及び技能】
○曲想と音色，旋律や呼びかけとこたえとの関わりに気付き，歌声や発音に気を付けて歌ったり，簡単な旋律をつくったりする技能を身に付ける。
【思考力，判断力，表現力等】
○旋律の呼びかけ合いが生み出すよさや面白さを基に，声の出し方や旋律のつなげ方について思いをもったり，曲全体を味わって聴いたりする。
【学びに向かう力，人間性等】
○友達どうしで旋律の呼びかけ合いを意識して歌ったり旋律をつくったりする学習や，呼びかけ合う旋律に注目して音楽を聴いたりする学習に楽しんで取り組む。

本題材に関わって，これまで「ことばでリズム」では，「反復」と「呼びかけとこたえ」の仕組みを知り，自分たちの身の回りのリズムを見付け，それらを工夫してつなげることによって音楽が生まれてくることを学習した。また，「おとをさがしてあそぼう」では，身の回りの音の特徴を聴き取り，それらの組み合わせが生み出す面白さを味わい，「呼びかけとこたえ」の仕組みを学習して音楽づくりを行ってきた。

この題材では，旋律に焦点を当て，「呼びかけとこたえ」の面白さを感じ取ったり，つなげ方に思いをもって簡単な旋律をつくったりすることができるようにすることをねらいとしている。

歌唱教材の「やまびこごっこ」では，互いの声を聴き合って同じ旋律を交互に歌い，声の出し方や強弱の工夫しながら，「呼びかけとこたえ」の仕組みを味わわせる。また，「まねっこあそび」では，一人で歌う面白さや，友達が自分の表現の工夫を模倣することの楽しさを感じることを通して，更に歌唱表現を豊かにしていくことにつなげていく。

音楽づくり教材「せんりつのよびかけっこ」では，鍵盤ハーモニカの学習を生かして，「呼びかけとこたえ」を使った旋律づくりを通して，友達と呼びかけ合うように，旋律をつなげて音楽をつくる楽しさや面白さを味わわせる。

鑑賞教材の「こうしんきょく」では，図形楽譜を手掛かりにオノマトペで歌ったり，体の動きを考えたりする活動を通して，呼びかけ合う旋律に親しみ，「呼びかけとこたえ」が生み出す曲のよさや面白さを感じ取りながら，曲全体を見通して聴く力を育てていく。そして，今後の鑑賞や音楽づくり，歌唱や器楽の旋律の動きの学習へとつなげていく。

３　研究にかかわって

研究内容１-(１) 他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

既習内容・他教科の学習内容や，生活経験をつなげる活動の設定

【音楽授業支援ＤＶＤを視聴し，前時との比較をする】

前時つくった１小節の旋律と，「呼びかけとこたえ」を使って２小節に組み合わせたＤＶＤの演奏を比較することにより，前時との違いを見付けることができるようにする。

課題づくりにおいては，前教材「やまびこごっこ」とは違うつなぎ方を示し，「呼びかけとこたえ」の音楽の仕組みに気付かせ，どのようにつなげたいか願いをもつことができるようにする。

研究内容 2-(１)発問・意図的な価値付け

音楽的な見方・考え方を働かせて表現しようとする姿の価値付け

【学習支援ソフトを使った交流と，仲間とつなげ方を工夫する場を設定する】

これまでの学習では，ＩＣＴを活用し，自分のつくった音楽を視覚的に分かるように，学習支援ソフトに示して聴き合い，仲間との対話を通して音楽づくりを工夫することを経験してきた。

本時においても，自分のつくった音楽を学習支援ソフトで視覚化し，どの子も主体的に取り組める場を設定する。仲間とつくった音楽を学習支援ソフトを使って交流し共有することによって，音楽のつなげ方を工夫・修正する活動がよりスムーズになり，更に深い学びへとつながると考える。

研究内容 2-(2)題材・一単位時間での終末の在り方【本時の振り返りを交流し，カードに記入する】

終末に，ねらいの視点に沿った振り返りを発表することにより，互いの学びのよさを共有できると考える。また，簡単な自己評価を位置付けることにより，本時の自分の学びのよさや高まりに気付かせ，次の学習への意欲や，身の回りの音楽への広がりを感じることができるようにする。

4　題材指導計画（全６時間）

前学年(前題材)からのつながり

第１学年「はくにのって　リズムをうとう」
たん　たん　たん　ぁぁ　と　たた　たた　たん　ぁぁ　のリズムを使って，「反復」や「呼びかけとこたえ」の言葉のリズムをつくる。

第１学年「みのまわりのおとに　みみをすまそう」
身の回りの様々な音の特徴に気付き，即興的に音を選んだりつなげたりして表現する。「音色」や「呼びかけとこたえ」を生かし，声の出し方やつなげ方を工夫して，声あそびをする。

【第1学年】「せんりつで　よびかけあおう」

題材の評価規準

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と旋律や呼びかけとこたえなどの音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・鑑） ②技 思いに会った表現をするために必要な，自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌） ③知 音やフレーズのつなげ方の特徴について，それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。（づ） ④技 思いに合った表現をするために必要な，呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みを用いて，簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）	思① 音色，旋律，強弱，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったこととの関わりについた考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもっている。（歌） 思② 旋律，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。（づ） 思③ 音色，旋律，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きを生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏の楽しさを見出し，曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 呼びかけ合う音楽に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり，鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・づ・鑑）

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

旋律

旋律の中の呼びかけとこたえを意識して，表現したり味わったりする。

	曲	時	ねらい	評価の観点 知・技	思	態
歌唱	やまびこごっこ・まねっこあそび	1	「呼びかけとこたえ」の表現や，曲想との関わりに気付き，互いの声を聴き合って「まねっこあそび」を楽しむことができる。	①知歌		
		2	音色や強弱・呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，思いをもって声の出し方を工夫することができる。	②技歌	思①歌	
音楽づくり	せんりつのよびかけっこ	3	どれみそそ の中から3つの音を選んで旋律をつくり，つくった旋律を使って，まねっこしたりつなげたりして，その面白さに気付くことができる。	③知づ		
		4（本時）	自分のつくった旋律を友達とつなげる活動を通して，違う旋律でも「呼びかけとこたえ」になることに気付き，旋律のつなげ方に思いをもってつくり，聴き合うことができる。	④技づ	思②づ	
鑑賞・歌・音楽づくり	こうしんきょく	5	呼びかけ合う旋律を口ずさみながら，楽器の音色を感じ取って聴き，曲想との関わりに気付くことができる。	①知鑑		
		6	楽器の音色や旋律の呼びかけ合いに気付き，曲や演奏の楽しさを見出し，曲全体を味わって聴くことができる。		思③鑑	態①歌 づ・鑑

「やまびこごっこ」や「こうしんきょく」の中には，旋律の呼びかけ合いがあることが分かったよ。呼びかけとこたえがあると，面白いね。「せんりつのまねっこ・おはなし」では，隣の音につなげたり，離れた音につなげたりすると，いろいろな旋律ができたよ。他にも「呼びかけとこたえ」を使った曲はないかな。また，友達と歌ったり，つなげたりして音楽をつくりたいな。

学びのつながり

第2学年
「名前で　せんりつ　あそび」
自分の名前を基に，ミ・ソ・ラの三つの音と ♩，♫，𝅗𝅥，𝄾 を使って，旋律をつくる。

第3学年
「ラ，ド，レの音で　せんりつづくり」
三つの音と決まったリズムを使って，旋律をつくる。

第4学年
「『さくら　さくら』の音階で　せんりつづくり」
日本の音階と決まったリズムを使って，音の上がり下がりやつなげ方を工夫しながら旋律をつくる。

第5学年
「『静かにねむれ』の和音で旋律づくり」
ハ長調の和音に含まれる音を使って旋律をつくる。

第6学年
「『雨のうた』の和音で旋律づくり」
イ短調の和音にふくまれる音を使って旋律をつくる。

中学校「旋律をつくる」学習へ

5　本時のねらい

自分のつくった旋律を友達とつなげる活動を通して，違う旋律でも「呼びかけとこたえ」になることに気付き，旋律のつなげ方に思いをもってつくり，聴き合うことができる。

6　本時の学習展開(4/6)

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　前時の学習を振り返る。** ・どれみふぁそから３つ音を選んで旋律をつくったね。 ・まねっこあそびは，面白かったね。 **2　A「呼びかけの旋律」と，B「こたえる旋律」をつなげた演奏を視聴し，課題を設定する。** ・「やまびこ　ごっこ」の時は，同じ旋律の「呼びかけとこたえ」だったけど，今日のは違う旋律がつながっていたね。やってみたいね。 ・色々な呼びかけ合いがあるね。やってみたいな。 ㋕よびかけあうように，せんりつをつなげよう。	・つくった旋律を，歌ったり鍵盤ハーモニカで演奏したりしてまねっこし，前時の学習を想起できるようにする。 **【研究内容 1-(1)】** ・前時につくった１小節の旋律を基に，「呼びかけとこたえ」を使って２小節をつなげたＤＶＤの演奏を視聴することにより，前時との違いを見付け，課題づくりへとつなげるようにする。 ・前教材「やまびこごっこ」とは違うつなぎ方の例を示し，「呼びかけとこたえ」の仕組みに気付き，どのようにつなげたいか願いをもつことができるようにする。
考える	**3　３人グループで「呼びかけ」と「こたえ」の役割を決めて，２小節の旋律をつくる。**（3人目は聴き役） ・A「呼びかける役」→B「こたえる役」 A「呼びかける役」→C「こたえる役」 ・交代してつなげてみようか。 ・こたえる方を，ちょっと変えてみたらどうかな。 **4　全部つないで，４小節の旋律をつくる。** ・A（リーダー）→B→A（リーダー）→C ・リーダーを交代してやってみたらどうかな。 ・前の子の音から始めてみようかな。 ・最後がドだと，終わった感じがするね。	**【研究内容 2-(1)】** ・自分のつくった音楽を学習支援ソフトで視覚化し，どの子も主体的に交流に参加できるようにする。また，友達のノートを見ながら，ペアやグループ内で順番を代わったり，聴き役の子が感じたことを話したりして，音を修正したりする姿を価値付ける。
深める	**5　グループでつくった旋律を，全体で交流する。** ・「呼びかけ」と「こたえ」が，しりとりになっていたよ。 ・どんどん音が上がっていたよ。 ・音がはなれている旋律をつなげると，はずむかんじがしたよ。 ・リーダーの「呼びかけ」に「こたえ」て，呼びかけ合っているみたいだったよ。	・自分たちがつくった旋律を交流する際には，どんな願いをもってつなげたかを発表する場を設定し，聴く際にも，どんな感じがしたかを見付けることができるようにする。 **【研究内容 2-(2)】** ・終末に，ねらいの視点に沿った振り返りを交流することにより，互いの学びのよさを共有し価値付けるようにする。また，簡単な自己評価を位置付けて，本時の自分の学びのよさや高まりを実感し，次の学習への意欲や身の回りの音楽への広がりを感じることができるようにする。
確かにする	**6　本時の振り返りをする。** ・しりとりでつないだり，違う音でつないだりして色々なつなぎ方を見付けたよ。 ・まねっこじゃなくても，「呼びかけ」と「こたえ」で，音楽ができることが分かったよ。 ・のぼる音階にすると，楽しい感じがしたよ。 ・最後をドにすると，終わった感じがすることが分かったよ。 ・他の曲にも，「呼びかけ」と「こたえ」があるのかな。探してみたいな。	**【評価規準】** 違う旋律でも「呼びかけとこたえ」になることに気付き，旋律のつなげ方に思いをもってつくり，聴き合っている。（思考・判断・表現）

２年２組 音楽科学習指導案

１　題材名　くりかえしを見つけよう

〈本時の教材〉

「おまつりの　音楽」

２　題材について

本題材の題材目標は，以下のように設定されている。

【知識及び技能】

○曲想と反復などの音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり，リズムやフレーズのつなげ方の特徴について，それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに，思いに合った表現をするために必要な，自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や，反復を用いて，簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。

【思考力，判断力，表現力等】

○リズム，旋律，フレーズ，反復などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかやリズムの組み合わせ方を工夫し，どのように音を音楽にしていくかについて思いをもったり，曲の演奏の美しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。

【学びに向かう力，人間性等】

○旋律やリズムの反復に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり，鑑賞の学習活動に取り組み，様々な音楽に見られる旋律やリズムの反復に親しむ。

本題材に関わって，これまで第１学年の「せんりつでよびかけあおう」では，互いの声を聴き合いながら呼びかけ合って歌ったり，鍵盤ハーモニカで旋律をつないで遊んだり，面白さを感じながら鑑賞したりする活動を行った。また，第２学年の声に着目した音楽づくり「なきごえをつかってあそぼう」では，身の回りの音への関心を高めるだけでなく，友達と協働して音をつないだり重ねたりして音楽をつくる活動も行ってきた。

この題材では表現や鑑賞の学習を通して，音楽の仕組みの一つである「反復」に焦点を当て，旋律やリズムが繰り返される音楽の面白さに気付いていくようにする。歌唱教材「かねがなる」では，鐘の音を表す擬音語で歌うなどして，短い旋律が反復されてできている曲であることに気付き，音の動きや歌詞の表す情景から，強弱や声の出し方に気を付けて歌うことを大切にしたい。本時の音楽づくり教材の「おまつりの音楽」では，太鼓の口唱歌やリズムカードを活用し，「反復」を使って音楽をつくる。その後，これらの表現教材と関連させながら，「トルコこうしんきょく」の鑑賞を行い，二つの旋律がそれぞれ繰り返される面白さに注目しながら音楽を聴くことで，曲のよさを感じ取ることができるようにしたい。そして，「反復」は音楽のいろいろなところで見付けることのできる音楽の仕組みであることに気付き，「反復」の面白さを，今後の音楽の学習につなげていく。

３　研究にかかわって

研究内容１-(1) 他の学習や生活と学びをつなげる学習活動【前時学んだことを振り返り，いろいろな反復の仕方やリズムの組み合わせを用いた音楽のよを想起させる】

導入では，前時に，８拍のおまつりのリズムをつくって聴き合い，いろいろな「反復」の仕方があり，「反復」があるとまとまった感じがすることや覚えて演奏しやすいなどのよさがあったことを想起させる。その時，リズム譜で視覚的に確かめたり，実際に口唱歌やリズム打ちをやってみたりすることで，実感しながら確認することができると考える。そして，課題づくりでは，友達とつないだ16拍のおまつりの音楽を聴き，前時の終末での願いやこれまでの既習曲・音楽づくりでの経験とつなぐことで，更に楽しいおまつりのリズムがつくれそうだと見通しや意欲をもつことができるようにする。

研究内容２-(1) 発問・意図的な価値付け【反復の仕方や選んだリズムの意図を問い，児童のよい姿を価値付ける】

机間指導や交流の場では，どこに「反復」が用いられているかを確認し，どうしてそこに「反復」を用いたのか，このリズムを選んだのか，そうすることで「どのような感じがするか。」等を問うことで児童の思いを引き出すようにし，よさを価値付けたり広めたりする。また，どのリズムカードを組み合わせ，どのように「反復」を使うかについて，友達の考えを生かしたり，何度も試したりしてリズムをつくっている姿を認め，友達と協働しながら試行錯誤する姿を大切にしていく。そうすることで，音楽の面白さを感じ取り，自分の思いに合う音楽づくりの参考にすることができると考える。

研究内容２-(2) 単元・一単位時間時間での終末の在り方【学びを実感させるまとめの活動】

実際に友達のつくった音楽や，グループごとにつないだ音楽を表現して面白さを感じたり，第２時で自分がつくったリズムと比較したりすることで，「反復」やリズムの組合せを工夫して友達とつなぐことで楽しい音楽をつくることができたことを実感し，今後の学習への意欲につなぐことができるようにする。

4　題材指導計画（全６時間）

前学年(前題材)からのつながり

第１学年　はくにのって　リズムをうとう
「ことばで　リズム」
タンとタタのリズムを使って　言葉でリズム遊びをする。

第１学年　せんりつで　よびかけあおう
「せんりつの　よびかけっこ」
よびかけあうように　せんりつを　つなげて遊ぶ。

第２学年　せいかつの中にある音を　楽しもう
「なきごえを　つかってあそぼう」
身の回りの音を声で表して，音楽をつくる。

【第2学年】「くりかえしを見つけよう」

題材の評価規準

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知・技 曲想と反復などの音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに，思いに合った表現をするために必要な，自分の歌声及び音声に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌） ②知 リズムやフレーズのつなげ方の特徴について，それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。（づ） ③技 思いに合った表現をするために必要な，音楽の仕組みを用いて，簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ） ④知 曲想と反復などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）	思① 旋律，フレーズ，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもっている。（歌） 思② リズム，拍，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。（づ） 思③ 旋律，強弱，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏の楽しさを見いだし，曲全体を味わって，聴いている。（鑑）	態① 旋律やリズムの反復に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり，鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・づ・鑑）

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

反復

↓

旋律の中の反復を意識して，表現したり味わったりする。

	曲	時	ねらい	評価の観点 知・技	思	態
歌唱	かねがなる	1	曲想と旋律の反復との関わりに気付き，工夫して歌う活動を通して，どのように歌うかについて思いをもつことができる。	①知 歌　①技 歌	思①歌	態①歌・づ・鑑
音楽づくり	おまつりの音楽	2	いろいろなリズムパターンを組み合わせて，口唱歌で表現したり手拍子で打ったりして楽しむ活動を通して，くり返しの面白さに気付くことができる。	②知 づ		↓
		3	反復を用いて８拍のリズムをつくって聴き合う活動を通して，いろいろな反復の仕方に気付いたり反復を生かして演奏したりすることができる。	↓　③技 づ		↓
		4本時	反復の仕方を考えてリズムの組み合わせを工夫し，友達とつないで表現する活動を通して，つくった音楽の面白さに気付きながら，思いをもって音楽づくりをすることができる。	↓	思②づ	↓
鑑賞	トルコ行進曲	5	旋律を聴き比べたり，気付いたことや感じたことを交流したりする活動を通して，2つの旋律が交互に繰り返されることや，そのよさに気付くことができる。	④知 技		↓
		6	曲の始めと終わりの部分を聴き比べたり，曲に合わせて体を動かして聴いたりする活動を通して，強弱の変化に気付き，軍隊の行列の様子を想像しながら曲全体を味わって聴くことができる。		思③鑑	↓

旋律やリズムのくり返しによって，曲が盛り上がったり，まとまりがある感じがしたりすることが分かった。くり返し方やリズムの組み合わせ方を工夫して，楽しいおまつりの音楽がつくれたよ。どんな音や音楽にくり返しが使われているのかな。くり返しに気を付けて，いろいろな音や音楽を聴いたり，歌ったりしてみたいな。

学びのつながり

リズムに着目した音楽づくり

第3学年
手拍子でリズム
三三七拍子のリズムを基に，反復や変化を活用しながら，まとまりのあるリズムをつくる。

第4学年
言葉でリズムアンサンブル
４文字の言葉と，それを基にしたリズムを使って，反復や変化を活用しながら，まとまりのあるリズムをつくる。

第5学年
打楽器でリズムアンサンブル
楽器の材質や音の響き，リズムの特徴に目し，音楽の仕組みを生かしながら音楽をつくる。

第6学年
ボイスアンサンブル
声の響きが重なる面白さを生かして，声によるリズムアンサンブルをつくる。

中学校
「音素材や構成を工夫して音楽をつくる」学習へ

5　本時のねらい

反復の仕方を考えてリズムの組合せを工夫し，友達とつないで表現する活動を通して，つくった音楽の面白さに気付きながら，思いをもって音楽づくりをすることができる。

6　本時の学習展開(4/6)

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	**1　既習内容を振り返る。** ・いろいろなリズムの選び方やくり返しの仕方があったね。 ・くり返しがあると，覚えやすくて演奏しやすかったね。 **2　8枚のカードをつないだリズムを聴いて，課題を設定する。** ・おもしろそうだな。やってみよう。 ㋕くり返し方やリズムを考えて，友だちとつなぐことで，もっとたのしいおまつりの音楽をつくろう。	【研究内容 1-(1)】 ・実際にリズムを打ったり視覚的に確かめたりすることで，いろいろな反復の仕方やリズムの組み合わせ方，反復のよさがあったことを想起できるようにする。 ・友達とつなぐことで、さらに面白い音楽になりそうだという思いをもって，課題づくりができるようにする。
考える	**3　各自で4枚のカードをつないでリズムをつくる。** ・同じリズムばかりだとつまらないな。 ・1枚目と2枚目を「ドンドコ」のリズムにして繰り返して，だんだんもりあがっていくようにしよう。 ・「ドコドコ」のリズムをくり返すと，にぎやかになるね。 ・くり返す場所を変えると、雰囲気が変わるね。 ・いくつもつくれた。一番のお気に入りは，これかな。	【研究内容 2-(1)】 ・どのように反復させるか，どのリズムを使うかについて，友達の考えを生かしたり，何度も試したりしてリズムをつくっている姿を価値付ける。 ・なぜこの反復の仕方にしたのか，このリズムにしたのか，どんな感じがするかを問うことで，児童の思いを引き出し，価値付けたり全体に広めたりする。 （中間交流会・机間指導）
深める	**4　ペアでつなぎ，反復の仕方や使うリズムを考える。** ・別のパターンに変えてみようかな。 ・順番を変えてやってみようか。 ・くり返しの場所を変えた方が面白くなりそうだな。 ・ここのリズムを変えた方がすっきりするかな。 ・最後は，終わる感じのリズムにしたいな。	【研究内容 2-(2)】 ・友達のつくった音楽を実際に表現し，どのようなくり返し方をしたのかを確かめたり，よさを感じ取ったりする。 ・グループでつないで表現したり，第2時で自分のつくったリズムと比較したりすることで，工夫して楽しいおまつりの音楽がつくれたことを実感させ，今後の学習への意欲につなげる。
確かにする	**5　ペアでつくったリズムを全体で交流し，くり返しの場所や使ったリズムを確かめる。** ・くり返しの場所が同じだけど，リズムが変わるとちがったおまつりの音楽になるね。 ・いろいろなくり返し方があって，ペアでつなぐと楽しいおまつりの音楽になったね。 **6　本時のまとめや振り返りをする。** ・いろいろなくり返し方やリズムの組み合わせ方があって，友達とつなぐと面白いおまつりの音楽になったね。他にもくり返しを使った曲があるのかな。	【評価規準】 反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。 （思考・判断・表現）

３年１組　体育科学習指導案

１　単元名　「ぐんのびダンス」
（Ｆ　表現運動　イ　リズムダンス）

２　単元について

本単元は，学習指導要領解説【第3学年及び第4学年】の内容Ｆのイを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○リズムダンスの行い方を理解するとともに，リズムの特徴を捉えて，全身で踊ることができるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】
○リズムの特徴を捉えた踊り方を工夫し，気に入った動きを友達に伝えることができるようにする。
【学びに向かう力，人間性等】
○リズムダンスに進んで取り組み，誰とでも仲よく踊ったり，友達の動きや考えを認めたり，場の安全に気を配ったりすることができようにする。

本学級の児童は，運動に意欲的に取り組める児童が多い。一方で，恥ずかしさや苦手意識から運動に消極的な児童がいる。また，自分が動くことに夢中になり，友達の動きのよさを見付けたり，関わり合って取り組んだりすることが苦手な児童が多い。そこで本単元では，音楽に合わせて全身をつかって踊る楽しさや爽快感，仲間の動きのよさを見付けて自己の動きに取り入れながら踊る楽しさを味わえるようにしていきたい。

本単元では，ロックとサンバのリズムを取り扱う。単元の前半にロックのリズムの特徴を捉えて全身を使って踊る姿を目指す。ロックのリズムでは，「ンタ，ンタ」の弾みや後打ちのリズムの特徴を捉え，へそを中心にその場で弾んだり，膝や腕等，体の各部分でリズムをとったりして即興的に踊る姿を目指したい。その後，サンバのリズムの曲へ変化させていく。ロックのリズムでの動き方とは違い，「ンタッタ，ンタッタ」のシンコペーションのリズムに特徴がある。ロックの時の上下の動きから，へそを中心に前後左右にスイングする動きや，細かいリズムにのって即興的に踊る姿を目指したい。

３　研究に関わって

研究内容１－（１）他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

【前時までの動きや感じ方との違いや共通点を比較する学習活動】

【発達の段階に合わせた相互援助活動】

導入時に，前時行ったロックのリズムに合わせたダンスを行う。その後，サンバのリズムの曲を流して体を動かしてみる。踊りながら動きの視点を確認することで，学んだことを思い出すと同時に，新たに出会うリズムとの違いに児童が気付くことができるようにする。

また，リズムの特徴を捉えて踊ることが苦手な児童もいると考えられる。音楽を聞いた後，いきなり活動に入るのではなく，教師の真似をしたり，仲間と一緒に踊ったりして，段階的にリズムの特徴を捉えられるようにしていきたい。さらに，追求時や交流時には友達の動きを真似したり，気に入った動きを伝えたりする時間を設定することで，友達と関わり合って運動に取り組めるようにしてきたい。

研究内容２－（１）発問・意図的な価値付け

【動きのよさを問い，変化とつなげて価値付ける】

交流時には，発表したグループや個の動きに対してよかった動きや気に入った動きを見付けて発表する。これまで学んできた動きの視点を基にまとめることで，その後の活動で取り入れやすいようにする。また，最後の振り返りの時間に，動きを変化させながら全身で踊っていた児童を，その視点につなげて価値付けていく。リズムが変わっても同じ視点を基にまとめていくことで，学びのつながりを意識する児童の姿につながっていくと考える。

研究内容２－（２）単元・一単位時間での終末の在り方

【視点を明確にした振り返り活動】

振り返りの際，「できたこと」と「どのように」，「分かったこと」と「どうして」という視点をセットにして振り返りを行う。仲間とつなげたことや，前時との違いに気付いたからこそ新しい動きが見付かったことを価値付けることで，児童が学びのつながりを意識できるようにしたい。

4　単元指導計画

	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目（本時）	5時間目	6時間目
学習の流れ	見通しをもつ	・リズムダンスの学習の進め方を知る。 リズムウォーミングアップを行う ・ハイタッチスキップ ・リズムジャンプ ・全身じゃんけん等	・リズムウォーミングアップを行う。 リズムにのって，体全体をつかって楽しくおどろう。 **本時のねらいの確認**				
			ロックのリズム ロックのリズムの特徴を捉えて，全身で踊ることができる。	仲間のよい動きを真似したり，取り入れたりして踊り方を工夫することができる。	サンバのリズム サンバのリズムの特徴を捉え，リズムに合わせて全身をつかって踊ることができる。	仲間のよい動きを真似したり，取り入れたりして踊り方を工夫することができる。	ロックサンバのリズム ダンス発表会に進んで取り組むことができる。
			【動きの視点】土台…はずむ 基本とする視点…ステップ，回る，ひねる 変化の視点…ストップ，スロー，繰り返し等				
	確かめる	・いろいろな音楽に合わせて二人組で真似をしながら踊る。	**チャレンジタイム** ・グループごとに即興的に踊る。 ・よい動きや変化を付けた踊りがあった場合は，全員で集まって真似をして動きを広げていく。				**レベルアップタイム** ・発表会に向けて，練習を行う。
			前半の動きを振り返り，後半で目指す姿を確認する。				
	深める		**レベルアップタイム** ・チャレンジタイムや交流会で確認した視点を基に，動きに変化をつけながら即興的に踊る。				**発表会** ・グループごとに最後の発表会を行う。
	確かにする	・学びの振り返りを行う。	**学びの振り返り** ・自分の成果を動きとつなげながら振り返る。 ・友達の動きのよさを見付けて伝える。				**学びの振り返り** ・単元の初めとの動きを比較して，自らの学びを確認する。
評価規準（重点）		友達と一緒にリズムダンスに進んで取り組んでいる。 （主体的に学習に取り組む態度）	ロックのリズムに合わせて，全身で踊ることができる。 （知識・技能）	仲間のよい動きを真似したり，取り入れたりして踊り方を工夫している。 （思考・判断・表現）	サンバのリズムに合わせて，全身をつかって踊ることができる。 （知識・技能）	仲間のよい動きを真似したり，取り入れたりして踊り方を工夫している。 （思考・判断・表現）	友達の動きのよさを認めようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

5　本時のねらい

サンバのリズムの特徴を捉え，リズムに合わせて全身をつかって踊ることができる。

6　本時の学習展開（4／6）

	学　習　活　動	研究に関わって
見通しをもつ	**1．リズムウォーミングアップを行う。** ・「リズムじゃんけん」「みんなでリズムうち」をリズムに合わせて行う。	・リズムに合わせて手拍子をうったり，体を大きく動かしたりしている児童をこれまでの学びの視点に合わせて価値付ける。
	2．本時の課題を確認する。 ・前時まで行ったロックのリズムに合わせて踊りながら，動きの視点を確認する。 ・本時の音楽としてサンバのリズムに合わせて踊ってみる。その後，これまでとの違いを交流する。 ・前の時間までは「ンタ，ンタ」ってリズムに合わせて踊ったけど，何だか今日の音楽だと合わない感じがするな。 ・体を細かく動かすとリズムに合う感じがするぞ。	【研究内容Ⅰ－（1）】 ・前時行ったリズムダンスを行うことで，学んだことを思い出すと同時に，新たに出会うリズムとの違いに児童が気付くことができるようにする。
	サンバのリズムに合わせて，体全体でおどろう。	
確かめる	**3．リズムに合わせて全員で合わせて踊る。** ・リズムに合わせて歩いたり，スキップをしたりする。 ・しゃがんだり，跳んだりしながら少しずつ動きを大きくしていく。 ・リズムをくずしたり，ストップしたりして動きに変化をつける。	・特徴に合わせて動きを工夫している児童を紹介することで，リズムの特徴に気付くことができるようにする。
深める	**4．グループごとに，サンバのリズムに合わせて動きを工夫しながら踊る。** ・グループごとにリーダー役を交代しながら，順番に真似をしながら踊る。	【研究内容２－（1）】 ・グループごとに動きを工夫する時間には，サンバのリズムに合わせて動けている児童の姿を価値付ける。また，どのように動いたのか問うことで，動きの工夫が明確になるようにする。
	5．中間交流会を行う。 ・グループごとに発表していき，全員で真似をしながら全身を使って踊る。 ・それぞれの踊りのよさを確認しながら進める。 ・足を細かく動かしているのがよい。 ・体をねじっているところがよい。	・中間交流会では，踊った後にどこがよかったかを問い，視点を明確にすることで，全員で即興的に踊ることができるようにする。
	6．友達の動きを取り入れたり，変化させたりしながら動きを工夫しながら踊る。 ・中間交流会でのポイントを意識しながら動きに変化をつけて即興的に踊る。	【評価規準】 サンバのリズムに合わせて，全身をつかって踊ることができる。 （知識・技能）
確かにする	**7．本時の振り返りをする。** ・今日できたことや分かったことを視点と合わせて振り返る。 ・○グループのダンスが，ロックの時よりも，細かく動いていたのがよかったです。 ・今日は，速いリズムに合わせて細かく動いたり，腕を揺らしたりしたら，サンバのリズムに合わせて踊ることができました。	【研究内容２－（2）】 ・振り返りの際，「できたこと」と「どのように」，「分かったこと」と「どうして」という視点をセットにして振り返りを行う。仲間とつなげたことや，前時との違いに気付いたからこそ新しい動きが見付かったことを価値付けることで，児童が学びのつながりを意識できるようにする。

3年2組 外国語活動学習指導案

1 単元名 Unit 6 "ALPHABET"

2 単元について

本単元は,学習指導要領【第3学年及び第4学年】の内容(3)ア聞くこと(ウ)「文字の読み方が発音されるのを聞いて,活字体で書かれた文字と結び付ける活動」を基に構成されている。

【知識及び技能】
○身の回りには,活字体の文字で表されているものがあることに気付き,活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむことができる。
【思考力,判断力,表現力等】
○文字への認識を深めるために,アルファベットの形に着目して,自由に仲間分けをしたり,動物のアルファベットを集めるために,簡単な語句や基本的な表現を用いて,伝え合ったりすることができる。
【学びに向かう力,人間性等】
○相手に伝わるように工夫しながら,アルファベットの文字を伝えようとすることができる。

本単元では,アルファベットを題材とする初めての単元となり,大文字とその読み方に慣れ親しむことを目標としている。

アルファベットに初めて触れる中学年段階であることを考慮し,一度にすべての読み方と文字を一致させることを求めたり,知識として一方的に指導したりすることはしない。本活動では,興味・関心が高まるような楽しい体験的な活動を仕組むことで,文字に慣れ親しめるようにしていく。また,第5学年及び第6学年では,自分のことや身近な簡単な事柄について,慣れ親しんだ簡単な語句や基本表現を用いて書く活動が始まる。本単元を通して,大文字とその読み方に慣れ親しみ,文字への認識を深めることで,高学年での文字指導につなげられるようにしていく。

本単元では,第3時までに,歌やゲーム活動を通して,アルファベットの「文字」と「音」に慣れ親しんでいく。また,アルファベットの大文字を自由に仲間分けする活動を行うことで,アルファベットの大文字の形への認識も深めていく。

本時は,動物にはどんなアルファベットが使われているか気付くことで,さらに文字への認識を深めていく。

3 研究にかかわって

研究内容1−(1) 他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

【生活と関わらせながら,目的・場面・状況を設定した言語活動の工夫】

帯活動では,絵本を読むことで,本時の言語活動で使う表現"Do you~?"や語彙(色や動物)を確認する。

また,「動物が脱走して園長が困っている」場面・状況,「アルファベットの文字を集めて動物園を復活させる」という目的を設定することで,一人一人が動物を集めるという役割を果たそうとActivityに取り組んだり,グループで協力して,集めたアルファベットの文字を並び替えたりして,主体的な言語活動につなげていく。

研究内容2−(1) 発問・意図的な価値付け

【ねらいの達成に立ち返る発問】

Sharing Timeでは,2つの活動を行う。1つ目は,グループで集めたアルファベットのカードを,動物のシルエットを参考に,動物の名称になるように並び替える。全体で,それぞれの動物に使われているアルファベットの文字を問い,発音することで,「文字」と「音」が一致しているかを確かめ,復習していく。2つ目に,それぞれの動物に使われているアルファベットに気付くことができる発問をする。同じアルファベットが使われている動物がいることやアルファベットが集まると単語になることに気付き,さらに文字への認識を深められるようにする。

研究内容2−(2) 単元・一単位時間での終末の在り方

【今までの学習をつなげる場の設定】

アルファベットの文字が集まると,動物の名称になることや,動物だけでなく,他のものでも同じことが言えることを押さえていく。また,振り返りシートを使って,「文字」と「音」が一致しているかを確かめたり,本時で気付いたことや単元の課題達成度を振り返ったりすることで,文字への深まりを実感できるようにしていく。そうすることで,今までの学習やこれからの学習と本時の学習をつなげられるようにしていく。

4 単元指導計画（全4時間） 単元名 Unit6 “ALPHABET” ◇見方・考え方を働かせている姿

【過去の指導との関連】

3年生 Let's Try! “Unit1 Hello!” 【表現】Hello./See you./Good bye.
“Unit4 I like blue.” 【表現】Do you~?/ Yes, I do. /No, I don't.
【語彙】red/blue/green/yellow/pink/orange/white/purple
“Unit5 What do you like?” 【語彙】lion/wolf/tiger/sheep/zebra/bear/snake/bird

単元の課題 アルファベットの大文字とその読み方をマスターしよう！

単元の学習の目的を理解し，アルファベットの文字とその読み方を習得する段階

第1時 Let's Watch and Think (P22,23) （指導に生かす評価）
・教科書の映像を見て，アルファベットの大文字とその読み方を理解することができる。
○町にかくれているアルファベットをさがそう。
◇果物屋さんには，“A”が隠れているよ。「エイ」と発音するんだな。
◇Orange には“O”のアルファベットが使われているんだな。
◇身の回りにはたくさんのアルファベットが使われているんだな。

第2時 （指導に生かす評価）
・ビンゴゲーム活動を通して，文字とその読み方を一致させることができる。
○同じアルファベットの仲間を見つけて，ビンゴをめざそう。
◇“Do you have~?” を使えば，相手がどんなアルファベットを持っているか聞くことができるんだな。
◇“C”と“G”は形が似ているから気を付けよう。

アルファベットへの認識を深める段階

第3時 Let's Play(P24) （指導に生かす評価）
・文字の形に着目して，仲間分けを行う活動を通して，文字への認識を深めることができる。
○アルファベットを仲間分けしよう。
◇“O”と “Q” ，“C”と “G” ，“E”と “F”は形が似ているな。
◇“A”，“V” ，“H”， “M”は半分に折ると，重なる文字になるんだな。
◇～さんはカーブでできている文字で仲間分けをしていたから，私もやってみよう。

第4時 **本時** （記録に残す評価）
ジェシカ動物園を復活させるために，アルファベットを集める活動を通して，大文字とその読み方に慣れ親しみ，文字への認識を深めることができる。
○ジェシカ動物園を復活させよう。
◇～さんに“Do you have エル?”と聞かれた。エルは「L」だから，自分のカードとは違うな。
◇「B」「E」「A」「R」を集めたら，“BEAR”になって熊になったよ。

【Unit の出口】

身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き，体験的な活動を通して，活字体の大文字とその読み方に慣れ親しみ，文字への認識を深めることができる。

【今後の指導との関連】

4年生 Let's Try!2
Unit5 “Do you have a pen?” 【表現】Do you have~ ?/ Yes, I do. /No, I don't.
Unit6 “Alphabet” 【表現】Do you have~ ?/ Yes, I do. /No, I don't.

5年生 Junior Sunshine5
Lesson 1 “Hello, friends” 【書く】自分の名前
Lesson 2 “When is your birthday?” 【書く】自分の名前/相手の名前
Lesson 4 “He can bake bread well.” 【書く】自分の名前/He / She

6年生 Junior Sunshine6
Lesson 1 “This is me!” 【書く】好きなものや宝物
Lesson 2 “My Daily Schedule” 【書く】週末の過ごし方
Lesson 3 “My Weekend” 【書く】週末にしたこと
Lesson 4 “Let's see the world.” 【書く】行きたい国とそこでできること
Lesson 5 “Where is it from?” 【書く】身の回りのものがどの国から来たのか
Lesson 6 “Save the animals.” 【書く】生き物のためにできること
Lesson 7 “My Best memory” 【書く】小学校一番の思い出
Lesson 8 “My Future, My Dream” 【書く】中学校生活や将来の夢

5　本時のねらい

ジェシカ動物園を復活させるために，アルファベットを集める活動を通して，大文字とその読み方に慣れ親しみ，文字への認識を深めることができる。

6　本時の学習展開（4/4）

	学　習　活　動	研究にかかわって
つかむ	1　**Greetings**：日直のあいさつの後に続いて言う。 2　**帯活動** ・Song "ABC Song"ーアルファベットの文字とその音を確認する。 ・Picture book "Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? "ー既習表現や本時で使用する語彙の確認をする。 3　**Oral introduction** ・動物園の動物が脱走して園長が困っている状況を確認し，JET と KET のやり取りから，ばらばらになったアルファベットを集めて，動物園を復活させるという目的意識を高める。 本時の課題：ジェシカ動物園をふっかつさせよう。	【研究内容 1-(1)】 ・やり取りをしながら，絵本を読むことで，本時の言語活動で使う表現（Do you~?）や語彙（色や動物に慣れ親しむことができるようにする。 【研究内容 1-(1)】 ・動物園の動物が脱走して園長が困っている場面・状況を設定することで，アルファベットを集めて，動物園を復活させるという目的意識を高められるようにする。
考える	4　**Activity①** ・グループでバラバラになったカードのアルファベットを見て，どんな動物になるか考える。 ・指定された色のアルファベットをグループで集める。 A: Hello. B: Hello. Do you have **red B**? A: No, I don't. Do you have **blue L**? B: Yes, I do. Here you are. A: Thank you. Bye. B: Bye.	【研究内容 2-(1)】 ・Sharing Time で，アルファベットの読み方を復習したり，文字だけを見て，それぞれの動物に使われているアルファベットに気付くことができる発問をしたりすることで，文字への認識を深められるようにする。
深める	5　**Sharing Time** ・集めた動物のカードをシルエットを参考にしながら，アルファベットを並び替え，動物を完成させる。 ・完成した動物のアルファベットの読み方を復習したり，アルファベットが集まると単語になったりすることに気付く。 6　**Activity②** ・**Activity①**で動物を完成させたグループは新しい課題に取り組み，集めきれなかったグループは全員で協力して集める。	【研究内容 2-(2)】 ・アルファベットの文字と音が一致しているか，ワークシートで定着を確かめたり，本時の学習で気付いたことや単元の課題達成を振り返ったりすることで，今までとこれからの学習をつなげられることができるようにする。
確かにする	7　**Review time** ・完成した動物園を園長に見てもらう。 ・アルファベットの文字が集まると，動物の名称になることや，動物だけでなく，他のものでも同じことが言えることに気付く。 ・本時の学習の定着を確かめたり，気付いたりしたことを書く。 ①自分が探していたアルファベットを見付けることができた。 ②"HOURSE"と"LION"は同じ文字"O"が使われていることが分かった。 ③ローマ字の読み方で読めないものがあった。 8　**Greetings**：日直のあいさつの後に続いて言う。	【評価規準】 既習表現を用いて，動物園を復活させ，文字への認識を深めている。 【思考・判断・表現】 活動の様子/ワークシート

５年２組 外国語科学習指導案

１　単元名　Lesson 5

～Where is the station?～

２　単元について

本単元は学習指導要領【第５，６学年】の内容（１）エ cd，（２）アを受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○疑問詞で始まる疑問文や肯定や否定の命令文を，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用することができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○自分が伝えたい情報を伝えるために，粘り強く繰り返し，英語を話すことができる。

本単元では，相手のことをよく知るために，地域のお気に入りの場所について，道順などの具体的な情報を聞き取ったり，お互いのことをよく知るために，道順やお気に入りの理由などを伝え合ったりすることを目標にしている。

そのため，①自分の町には何があるのか。②どこにあるのか。③どのようにたどり着くのか。④どのような魅力があるのか。を第１時から積み上げていく必要がある。本時は自分の理想の町にあるものについて，地図を使って，「③どのようにたどり着くのか。」を仲間に説明する活動を行う。

単元の最後には，自分の町について，どこに何があるのか，どのようにたどり着くのかだけでなく，その魅力も含め説明するプレゼンテーションを位置付けている。その活動で，分かりやすく道順を伝えられるように，本時では，繰り返し道案内をするだけでなく，単元の終末に向けて，相手意識をもった会話をするためにはどうすればよいのかを考えさせたい。正確な英語表現に留意させながら，仲間の好みを聞き出し，相手意識のある単元の終末につなげていく。また，自分が作った町について説明することで，「自分の町について伝えたい」という願いを基に，言語活動を行っていく。

３　研究にかかわって

研究内容１-（１）他の学習や生活と学びをつなげる学習活動

【既習表現を本時につなげる帯活動の工夫】

前時，道案内に必要な基本表現を学習している。前時の学習内容を帯活動として取り扱うことで，本時必要な知識及び技能を補うことができるのではないかと考える。また，ドリル的に確認するのではなく，やり取りを行うことで，目的意識のある中で既習表現を想起できるようにする。

研究内容２-（１）発問・意図的な価値付け

【学習状況に合わせた発問・意図的な価値付け】

本時はSharing Timeを２度行う。

１度目は，道案内に必要な表現を全体で確認できるような発問を行う。具体的には，うまく道案内ができなかったというペアに対して，どこで行き詰ったのかなど，つまずいたポイントを問う。どんなことに困ったのかを教師だけでなく，全体で考えて，解決するためにはどうすればよかったのかを全体で共有し，個に応じた課題を解決していく。Sharing Time後の活動で，変容があれば，よくなった点を具体的に価値付けることによって，自己の成長を実感させ，その後の主体的な学びにつなげていく。

２度目は，事前にとっておいた，マイタウンに必要な施設ランキングを提示して行う。目の前の仲間の意見だけではなく，クラス全体の仲間の考えに触れさせることで，さらに相手意識をもった言語活動につなげていく。具体的には，アンケート結果を基に，マイタウンの配置を変えたり，自分がその配置にこだわっている理由を話すための表現を確認したりする時間につなげていく。そうすることで，相手意識を基にマイタウンをアップデートするという本時のねらいに迫っていく。

研究内容２-（２）単元・一単位時間での終末の在り方【今までや単元の終末の学習を意識した振り返りを書く】

本時は，単元の終末に行われるプレゼンテージョンのために必要な表現方法を獲得する時間である。そのため，何ができたのかだけでなく，何ができるようになりたいのかを考え，文字として残すことにより，いつでも学習状況や目的を振り返り，効果的に学習を進めていく。

4. 単元指導計画（全8時間） 単元名 Lesson 5 "Where is the station?"

【過去の指導との関連】

3年生	Let's Try!1	【表現】I like~./ Do you like~?/ Yes, I do. /No, I don't./ I don't like~.
4年生	Let's Try!2	【表現】Do you have~? / What do you want? / This is my favorite place.
5年生	Junior Sunshine 5	
	Lesson 1 "Hello everyone"	【表現】Why? I like ~. What ~ do you like?
	Lesson 4 "I can draw a picture."	【表現】You can see~.

単元の課題 自分の町に住みたいと思わせるプレゼンテーションをしよう！

単元の学習の目的を理解する

第1時　単元の導入（指導に生かす評価）

○しせつや建物を英語で言えるようになろう。

・町にある施設や建物の言い方を繰り返し練習する活動を通して，自分の町にあるものを伝えることができる。

◇gym / hospital / hamburger shop / etc.

◇We have ～ in my town.

場面や状況に応じて，表現を習得する段階

第2・3時　どこにあるのかを伝える活動（指導に生かす評価）

○物がどこにあるのか言えるようになろう。（第２時）　○マイタウンのどこに何があるのか伝えられるようになろう。（第３時）

・物がどこにあるのか伝え合う活動を通して，物の位置を表す表現について理解することができる。

・マイタウンにある建物がどこにあるのか伝え合う活動を通して，建物の場所について尋ねたり，答えたりすることができる。

◇Where is ～？

◇It's on (in/under/by) the park.

第4時　どのようにたどり着くのかを伝える活動（指導に生かす評価）

○正しい道順を伝えられるようになろう。

・相手に道順を尋ねたり，答えたりする活動を通して，道順を説明する英語について理解し，使うことができる。

◇Where is ～？

◇Go straight for one block (two blocks). / Turn right(left). / You can see it on your right(left).

場面や状況に応じて，表現をさらに活用する段階

第5時（本時）　どのようにたどり着くのかを分かりやすく伝える活動（指導に生かす評価）

○仲間の情報を参考に，マイタウンをアップデートしよう。

・マイタウンのどこに何があるのかを伝える活動を通して，分かりやすく道順を伝えたり，相手の好みを聞いたりすることで，マイタウンに何が必要なのか考えることができる。

◇Where is ～？

◇Go straight for one block (two blocks). / Turn right(left). / You can see it on your right(left).

第6時　相手意識をもって，マイタウンにどのような魅力があるのか伝える活動（指導に生かす評価）

○マイタウンのこだわりポイントを伝えられるようになろう。

・自分の町のこだわりを伝え合う活動を通して，相手に自分の町を魅力的に伝える方法を考えて，会話することができる。

◇My favorite place is ～.

◇What～do you like? / We have～in my town. / It's by～.

第7時　相手意識をもって，マイタウンの魅力を伝えられるプレゼンテーションをつくる活動（指導に生かす評価）

○自分の町に住みたいと思わせるプレゼンテーションをつくろう。

・マイタウンの魅力を最大限に伝えられるプレゼンテーションを作成することができる。

◇My favorite place is ～.

◇What～do you like? / Go straight for one block (two blocks). / We have～in my town. / It's by～.

第8時　自分の町に住みたいと思わせるプレゼンテーションを行う活動（記録に残す評価）

○自分の町に住みたいと思わせるプレゼンテーションをしよう。

・マイタウンに何があるのか，どのように行くのかなどの魅力を伝える活動を通して，道順やお気に入りの理由などを尋ねたり，答えたりして伝え合うことができる。

◇My favorite place is ～.

◇What～do you like? / Go straight for one block (two blocks). / We have～in my town. / It's by～.

【Lesson の出口】

自分のお気に入りについて伝えたり，相手のことをよく知ったりするために，地域のお気に入りの場所について，道順などの具体的な情報を聞き取ったり，お互いのことをよく知るために，道順やお気に入りの理由などを伝え合ったりすることができる。

【今後の指導との関連】教科書 小学校5・6年 Junior Sunshine 5/6　中学校 NEW HORIZON

5年生	Lesson 6 "What would you like?	【題材】身近な人のためにランチメニューを考え，丁寧な言い方で注文することができる。 【表現】He(she) wants～.
	Lesson 7 "I love my town."	【題材】自分たちの「町の素敵なところ」について発表することができる。 【表現】We have(don't have) a park.
	Lesson 8 "My hero."	【題材】他の人の得意なことやできることなどについて，発表することができる。 【表現】I'm good at～.
6年生	Lesson 1 "This is me."	【題材】自分のことをよく知ってもらうために自己紹介をしたりすることができる。 【表現】What do you like? I like(want)～.
	Lesson 5 "Where do you want to go?"	【題材】相手のことをよく知るために行きたい国とその理由について，聞き取ることができる。 【表現】What do you like? I like(want)～.

5．本時のねらい

マイタウンのどこに何があるのかを伝える活動を通して，分かりやすく道順を伝えたり，相手の好みを聞いたりすることで，マイタウンに何が必要なのか考えることができる。

6．　本時の学習展開　(5/8)

	学　習　活　動	指　導　・　援　助
つかむ	1．Greeting ・挨拶を通して，天気・日付・曜日を確認する。 2．Warm up Small Talk ・前時学習した道順の伝え方を，前時の学習内容と同じ形でやり取りする。 3．Oral introduction ・JET と KET がマイタウンの道案内をしながら，好みを伝え合う会話をすることで，今日の授業でやるべきことを全員で共有し，自己課題を設定する。 仲間の情報を参考に、マイタウンをアップデートしよう。	【研究内容1－(1)】 ・前時に学んだ表現を確認し，本時の学習に生かす。 ①前時に扱った英文を確認して，前時の内容を想起できるようにする。 ②実際にやり取りすることで，実態を把握したり，援助したりして，本時必要な語彙を獲得する。 【研究内容2－(1)】 ・本時の学習内容を児童自ら考え，自己課題をもてるような発問をすることで，児童が課題意識をもつことができるようにする。
考える	4．Activity① ・会話の流れを確認して，実際にやってみる。 5．Sharing Time① ・目的地まで案内できたかどうか，地図を見せ合って確認する。うまくいかなかった点やさらによくするために必要なことを考える。 ・課題の「アップデート」するために，どんなやり取りが必要かを考える。 6．Activity② ・バズ形式で４分ごとに相手を変えて，地図を作成する。	【研究内容2－(1)】 ・Sharing Time①では，内容面の気付きだけでなく，言語面での気付きをもつことができるようにする。 ①会話する中で，うまく道順を伝えられなかったペアに困り感を尋ね，それぞれ全体で共有することで，言語面の課題を解決できるようにする。 ②課題に立ち返ることで，内容面の指導も行う。好きなこと以外に，なぜその場所にしたのかなどを英語で聞くことにチャレンジできるようにする。
深める	7．Sharing Time② ・教師が，事前に取ったアンケートの結果を提示する。その結果を基に，マイタウンの配置を変えたり，仲間に伝える英語を考えたりする。 8．Activity③ A: I like USJ. Where is the amusement park? B: Go straight for two blocks. Turn right. You' ll see it on your right. A: Here? Why? B: An amusement park is No.1. But it' s noisy. A: Oh, I see.	【研究内容2－(1)】 ・アンケートを基に，ねらいを振り返る。課題達成のために自らの学びを自己調整することのできる発問をする。
確かにする	9．Summary ・自己課題に対する達成度と，単元の課題達成に照らし合わせた振り返りをして次の時間の学習につなげる。 ・自分の町のどこに何があるのかを正しく伝えることができた。たくさんの仲間が遊園地のことが好きであることが分かったけど，学校の隣に遊園地を置くのはうるさいから遠ざけようと思った。これからはもっとマイタウンの魅力を伝えられるようにしたい。	【研究内容1－(2)】 ・まとめには，自己の達成度，マイタウンについて気付いたことや改善点，単元の課題達成に向けた内容を書くようにする。 【評価規準】　指導に生かす評価 正確に道順を伝えたり，相手の好みを聞いたりすることで，マイタウンに何が必要なのか考えている。 (思考・判断・表現) 活動の様子／学習支援ソフトへの提出物／振り返りシート

６年２組 外国語科学習指導案

１　単元名　Unit5　“Where is it from?”

２　単元について

本単元は学習指導要領【第５，６学年】の内容（３）エ（ウ）を受け，設定したものである。そして，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○身の回りのものの生産国について，やり取りの概要を捉えたり，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったりすることができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○自分たちと世界とのつながりを知ったり伝えたりするために，身の回りのものとその生産国についてのやり取りの概要を捉えたり，簡単な語句や基本的な表現を用いて，伝え合ったりすることができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○身の回りのものに目を向け，生産国を紹介したいという気持ちを高めながら，自分の考えや気持ちを整理し，発表することができる。

本単元の目標は，日本と世界とのつながりを知り，相互に支えあっているということを実感することである。そのために，身の回りのものの生産国を調べ伝え合うことで，世界を身近に感じさせていく。

またこれまでの学習では，「お互いのことを知る」という目的意識を大切にして，言語活動を行ってきた。本単元でも，それぞれの児童が，自分にとって身近なものを取り上げ紹介し合うことで，仲間への関心も高めていきたい。

本単元では，「自分と世界のつながりマップを紹介し，世界へのとびらを開こう。」という課題を設定し，学習を進めていく。単元の前半では，教科書の音声や映像，またオリジナルサンドイッチを伝え合う活動を通して，生産国について紹介する表現に慣れ親しんでいく。

単元の後半では，自分の身近なものがどこから来ているのかを調べ，タブレット上の世界地図に記し「自分と世界のつながりマップ」を作成していく。そして単元終末である本時では，そのマップを仲間と伝え合うことで，自分と世界，日本と世界との関係をより感じさせていきたい。また世界とのつながりを実感した上で，過剰生産の現状を伝えることで，自分の身近なものがどのように作られているのか，そして自分に何ができるのかを考えさせ，今後の日常生活へとつなげていく。

３　研究にかかわって

研究内容１－（１）他の学習や生活と学びをつながる学習活動

【既習内容を本時につなげる活動】

前単元と本単元では，「世界」について学習を進めている。そこで帯活動の Small Talk では，トピックを前単元で学習した“Country”に設定することで，既習内容を想起し，本単元の学習へとつなげることができるようにする。

また，その後の Teacher Talk では，教師と児童と全体でやり取りをすることで，既習表現への気付きを促し，本時でも活用することができるようにする。また，実際に身に付けている服でやり取りすることで，生活とつなげることができるようにする。

研究内容２－（１）発問・意図的な価値付け

【ねらいの達成に立ち返る発問】

本時では，自分の身近なものの生産国について，マップを使って伝え合う活動を行う。伝える相手を変え，何度か行う間に Sharing Time を設ける。Sharing Time では，ねらいを児童に再度意識付けできるように２つの発問をする。１つ目は，「困ったことや，相手にもっと伝えたいことはあるか」と問う。Activity①でのつまずきや疑問を全体で共有することで，正確性を高めたり，表現を増やしたりしていけるようにする。２つ目は，「仲間の発表を聞いて，意外だったことや初めて知ったことはあるか」と内容に関することを問うことで「自分と世界，日本と世界のつながりを実感する」という単元の目的に再度立ち返ることができるようにする。その上で，世界の生産課題について伝え，これからどう行動していくべきか考えさせる。その英語表現を全体の場で考え，表現を再構築する時間をとり，Activity②へとつなげていく。

研究内容２－（２）単元・一単位時間での終末のあり方

【今までや単元の終末の学習を意識した振り返りを書く】

本時の終末に，「仲間の発表を聞いて，自分と世界，日本と世界のつながりについてどんなことを思ったか。」と問い，交流することで，「世界とのつながりを実感する」という単元を貫く課題を意識付けできるようにする。

4. 単元指導計画（全8時間） 単元名 Unit5 "Where is it from?"

【過去の指導との関連】Let's Try！（3・4年生），NEW HORIZON Elementary（5・6年生）

3年生	Unit7 "This is for you."	【表現】This is~.
	Unit8 "What's this?"	【表現】It's~.
4年生	Unit8 "This is my favorite place."	【表現】This is ~.
5年生	Unit4 "He can bake bread well."	【表現】This is~.
	Unit5."Where is the post office?"	【表現】Where is~?
	Unit7 "Welcome to Japan".	【題材】世界に広がる日本文化について考えよう。
6年生	Unit1 "This is me!"	【表現】This is~./ It's from~?/
	Unit4 "Let's see the world."	【題材】世界の国々について

単元の課題 自分と世界のつながりマップを紹介し，世界へのとびらを開こう！

単元の学習の目的を理解する

第1時 単元の導入（指導に生かす評価）

○自分と世界のつながりを知ろう。

・身の回りのものとその生産国についての教師の話を聞くことを通して，自分の生活が世界とつながっているということを理解し，単元終末の活動をイメージすることができる。

◇This is my～. / It's from～. /（国）is in (地域).

◇I like～. / My treasure is～. /（国）is a ～country.

場面や状況に応じて，表現を習得する段階

第2・3時 Starting Out, Listen and Think, Watch and Think (P48,49)（指導に生かす評価）

○ソフィアはどこで，だれと，どんな会話をしているのか聞き取ろう。

・身の回りの生産国についてのやり取りの概要を捉えたり，表現に慣れ親しんだりすることができる。

・教科書の登場人物が持っているものの生産国について聞き，日本と世界とが相互に支えあっていることに気付き，共生の意識を高めることができる。

◇This is my～. / It's from～. /（国）is in (地域). / Where is it from? / My … is from～. /

場面や状況に応じて，表現をさらに活用する段階

第4時 Let's watch, Let's Listen1, Let's Try (P50)（指導に生かす評価）

○オリジナルサンドイッチのみりょくを仲間に伝えよう。

・オリジナルサンドイッチの食材とその産地をたずねたり，伝えたりすることができる。

◇Tell me about your sandwich. / My sandwich is … sandwich. / Where is it from? /（食材）is from～. /

◇Do you like ～? / Yes, I do. / No, I don't. /

第5時 Let's Listen2（P51）（指導に生かす評価）

○自分と世界のつながりマップをつくろう。

・自分の身近なものの生産国について，表現を振り返ったり情報を整理したりして，伝え方を考えることができる。

・自分の身近なものの生産国についてのマップを作り，自分の生活と世界とのつながりに気付くことができる。

◇This is my～. / It's from～. /（国）is in (地域).

◇I like～. / My treasure is～. /（国）is a ～country.

第6時（本時） 自分と世界とのつながりマップを紹介する活動（記録に残す評価）

○自分と世界のつながりマップを仲間に伝えて，世界へのとびらを開こう。

・自分と世界のつながりマップを紹介する活動や，世界の生産についての現状を知ることを通して，身近なものの生産国について伝え合い，日本と世界が相互に支え合っていることを実感したり，自分に何ができるのかを考えたりすることができる。

◇This is my～. / It's from～. /（国）is in (地域).

◇I like～. / My treasure is～. /（国）is a ～country.

単元のテーマへの視野を広げ，英語を学ぶ意欲を高める段階

第7時 Over the Horizon（P54,55）（指導に生かす評価）

○日本と世界のつながりの深さを知ろう。

・日本と世界との交流の歴史についての音声や映像を通して，日本と世界のつながりに対する理解を深めることができる。

◇It's from～. /（国）is in (地域). / Where is it from? /

第8時 Over the Horizon（P54,55）（指導に生かす評価）

○生産国の生活について知ろう。

・音声や映像を通して，外国の子供のことやその国の特徴について考え，理解を深めることができる。

◇It's from～.

【Unit の出口】

自分たちと世界とのつながりを知り，日本と世界とが相互に支え合っていることを理解するために，自分の身近なものの生産国について，聞き取ったり紹介したりすることができる。また，身近なものの生産国について，例文を読んだり，それを参考に書いたりすることができる。

【今後の指導との関連】NEW HORIZON Elementary（5・6年生） NEW HORIZON English Course1（中1・2・3年生）

6年生	Unit7 "My best Memory."	【題材】世界の小学校の生活や行事について考えよう。
中1年生	Unit2 "New School, New Friends"	【表現】This is~.
	Unit7 "Foreign Artists in Japan"	【題材】日本の文化に取り組む外国人を知り，日本の文化について理解を深める。
中2年生	Unit2 "Food Travels around the World"	【題材】日本や外国の料理を知り，食文化の歴史や変化について考える。
中3年生	Unit2 "Haiku in English"	【題材】海外でも愛される日本の伝統文化の魅力を知り，言語や文化のちがいについて考える。
	Stage Activity2 "Discover Japan"	【題材】世界に広がる日本の文化を紹介する文を，詳しい情報を加えながら書くことができる。

5 本時のねらい

自分と世界のつながりマップを紹介する活動や，世界の生産についての現状を知ることを通して，身近なものの生産国について伝え合い，日本と世界が相互に支え合っていることを実感したり，自分に何ができるのかを考えたりすることができる。

6 本時の学習展開（6/8）

	学　習　活　動	指　導　・　援　助
つかむ	**1　Greetings：日直のあいさつの後に続いて言う。** **2　帯活動** ・Song "Take Me Home, Country Roads" ・Small Talk "Country" **3　Teacher Talk** ・今来ている服の生産国について全体で会話をし，学習した表現を確認したり，本時の課題を共有したりする。 自分と世界のつながりマップを仲間に伝えて， 世界へのとびらを開こう。	**【研究内容 1-(1)】** ・前単元で学習した内容を Small Talk のトピックにすることで，既習表現を復習したり，本単元とのつながりを意識したりすることができるようにする。 ・教師と児童と全体で会話をすることで，既習表現への気付きを促すことができるようにする。また，実際に身に付けている物でやり取りすることで，生活とつなげることができるようにする。
考える 深める	**4　Activity①** ・自分の身近なものの生産国についてのマップをペアで伝え合う。 **5　Sharing Time** ・活動中に困ったこと，Activity①でよく見られた誤りなどを全体で共有し，表現を増やしたり，正確性を高めたりする。 ・仲間のマップについて全体で交流し，日本と世界のつながりを再認識する。 ・過剰生産問題や，それに対する世界の取組について聞き，これから自分がどう行動していくべきか，またその英語表現を全体で考える。 **6　Activity②** ・Sharing Timeで学んだことを生かして，再度ペアで伝え合う。 **【目標とする発話例】** I like soccer. This is my soccer ball. My soccer ball is from Pakistan. Pakistan is in Asia. This is my soccer shoes. This is Mizuno. Where is it from? Can you guess? It is from Vietnam. I want to clean my soccer ball and shoes.	**【研究内容 2-(1)】** ・Sharing Time で「困ったことや，相手にもっと伝えたいことはあるか」と問うことで，正確性を高めたり，表現を増やしたりすることができるようにする。 ・Sharing Time で「仲間の発表を聞いて，意外だったこと・初めて知ったことはあるか」と問うことで，世界とのつながりを再度焦点化することができるようにする。 ・Sharing Time を受けて，これから自分がどう行動していくべきかを伝えている児童を取り上げ，価値付ける。
確かにする	**7　Review Time** ・自分と世界，日本と世界とのつながりについて考えたことを書き，交流する。 自分や友達のつながりマップから，着るものは中国やベトナムで多く作られていることを知った。でもこれらの国では，過剰生産が問題になっていて，たくさんの人が長時間働いていたり，環境問題が起こったりしている。だから物が長持ちするように，これからは大切に使ったり，リサイクルボックスを利用したりしていきたい。 **8　Greetings：日直のあいさつの後に続いて言う。**	**【研究内容 2-(2)】** ・仲間との交流から「自分と世界，日本と世界とのつながりについて，どんなことを感じたか」と問うことで，日常生活やこれからの学習につなげていくことができるようにする。 **【評価規準】** 身近なものの生産国について伝え合い，日本と世界，自分と世界とのつながりを実感し，これから自分にできることを考え伝えている。（思考・判断・表現） 活動の様子/振り返りシート

（自閉情緒）国語科学習指導案

1　単元名

言葉のたから箱

2　単元について

本単元は学習指導要領の第３章各学年の内容（１）言葉の特徴や使い方に関する事項のオを受け，以下のように単元目標を設定した。

【知識及び技能】
○様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすることができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○相手に伝わるように，語彙を正しく使いながら話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○話の内容を理解し，質問する，復唱して確かめる，共感を示す，感想を言うなどして互いの話に関心をもって聞き，取り組むことができる。

「言葉のたから箱」は，感想や意見などを書いたり話したりするときに使える言葉を，発達の段階に応じて集めた付録資料である。併せて，言葉を増やすための活動も紹介し，児童の語彙力や思考力，表現力を育成することをねらいとしている。語彙を豊かにするとは，自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。使用する語句の量や範囲を広げながら，語句相互の意味関係を理解することで，児童が，自分の語彙を豊かにすることが重要である。指導に当たっては，例えば，聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目することや，話したり書いたりする際にいろいろな表現を使うようにすることが有効である。

豊かな語彙を身に付けると，自分の感情を的確な言葉で表現し，考えを深められる。これは，国語学習の基本となり，言葉は一朝一夕で身に付くものではない。「言葉のたから箱」は第１学年から第６学年までの全ての学年で共通化し，発達の段階に応じた言葉と出会えるようにしている。自分の思いを上手く言葉で表現ができない児童たちにとって，語彙を増やすことは生きていく上で大切なことである。自分の思いを的確に表現し，家族や友人，地域の人々とのコミュニケーションが取れるようになり，自分の伝えたいことを表現できたという実感を味わわせ，工夫して話そうとする態度へとつなぐことを大切にしたい。

3　研究にかかわって

研究内容１－（１）他の学習や生活と学びがつながる学習活動の設定

【個々の特性及び心身の発達に合わせた指導内容や手立ての工夫】

タブレットで語彙の一覧を見られるようにしておくことで，書くことに抵抗のある児童や，話すことが苦手な児童でも表現ができるようにする。また，考えや気持ちを伝える言葉を使うことで，語彙を習得し，他教科や普段の生活の中でのコミュニケーション等に活用することができるようにする。

研究内容２－（１）発問・意図的な価値付け

【個々の特性や発達に応じた導入場面での問いかけ】

様々な表情の絵と言葉を提示する。その絵の表情に合う場面の絵と言葉を一致させ，意味の理解ができるようにするために，絵を見ながら実際にゆっくりと正しく声に出す。発音することで言葉の意味を再確認し，どの児童にも言葉とその意味の理解につながると考える。

研究内容２－（２）単元・一単位時間での終末の在り方

【児童の特性及び発達に応じた評価】

終末に，個の目標の達成状況を振り返り，発表することで自分の学びのよさや高まりに気付くことができるようにする。また，仲間のよさを話すことで，互いの学びのよさを共有することができると考える。

繰り返し語彙を習得することで，自己肯定感や自己有用感を高め，普段の生活で自信をもつことができるようにする。

4　単元指導計画

単元名　「言葉のたから箱」

時	学習内容	評価規準
1	教科書に載っている「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」を読み，言葉の意味を調べたり，教え合ったりしながら言葉の意味を理解し，その言葉を使って文を作る。	たくさんの言葉や言葉の意味を知り，使うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
2	写真を見て分かることを話す。そして，「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」の中から写真に合う言葉を選んで話す。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉から選び，話すことができる。 【知識・技能】
3	写真を見て，「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」を使いながら，短い言葉で書いたり，話したりする。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら短い言葉で書いたり，話したりすることができる。 【知識・技能】
4	写真を見て，「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」を使いながら，２語以上の言葉で書いたり，話したりする。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら２語以上の言葉で書いたり，話したりすることができる。 【知識・技能】
5 本時	写真を見て，「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」を使いながら，３語以上の言葉で書いたり，話したりする。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら３語以上の言葉で書いたり，話したりすることができる。 【知識・技能】
6	写真を見て，「人物を表す言葉」「事物を表す言葉」「心情を表す言葉」を使いながら，主語述語の関係に気を付けて３語以上の言葉で相手に伝わる言葉で書いたり，話したりする。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら主語述語の関係に気を付けながら３語以上の言葉で書いたり，話したりすることができる。 【思考・判断・表現】

＜他学年とのつながり＞

【語彙】

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
・明るい	・たくましい	・すなお	・ゆうかん	・気のいい	・率直
・げんき	・勇気のある	・温がい	・行動力のある	・いさぎよい	・誠実
・しずか	・しっかりもの	・ねばり強い	・責任感が強い	・じゅんすい	・楽天的
・やさしい	・うっかり	・気が長い	・無責任	・いせいがいい	・悲観的
・こわがり	・正直	・気が小さい	・がむしゃら	・びんかん	・積極的
・がんばりや	・真面目	・陽気	・用心深い	・むじゃき	・消極的

5 本時のねらい

身近な人物の写真を見て，人物や出来事について分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら3語以上の言葉で書いたり，話したりすることができる。

6 本時の展開（５／６）

	児童							研究にかかわって
	本時のねらう姿	考えや気持ちを伝える言葉を選び，写真と合う単語を書くことができる。	写真と合う単語を自分で選び，支援を受けながら文を書いたり，話したりすることができる。	考えや気持ちを伝える言葉を選び，文を書いたり，話したりすることができる。	気持ちを伝える言葉を選んだり，自分で考えたりしてタブレットで文を書き，話すことができる。	気持ちを伝える言葉を選んだり，自分で考えたりして文を書き，話すことができる。	気持ちを伝える言葉を選び，支援を受けながら文を書き，話すことができる。	【研究内容2－(1)】 どの児童にも言葉とその意味が分かるように絵と言葉を一致させ，意味の理解ができるようにする。 【つまずきへの対応】 ①「だれが」「何をしている」等の様子がかかれた言葉や，「一生けんめい」「美しい」等の様子を表す言葉がかかれたカードを準備し，選んで並べられるようにする。 ②タブレットで気持ちを伝える言葉の一覧を見られるようにしておき，選べることもできるようにする。 【研究内容1－(1)】 考えや気持ちを伝える言葉を知ったり，使ったりすることで語彙を増やすことができるようにする。 【研究内容2－(2)】 個の目標の達成状況を振り返って発表し，自分の学びのよさや高まりに気付くことができるようにする。 【つまずきへの対応】 ①児童の活動をタブレットで撮影し，電子黒板に映し出すことでできていることを確認できるようにする。 【評価規準】 写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら3語以上の言葉で書いたり，話したりすることができる。
	ねらい	学習活動						
つかむ	1. 様子や気持ちを表す言葉を声に出して読むことで，正しい発音や意味の確認をする。	・言葉の意味を理解し，多少の動作を加えながら教師の言葉を繰り返す。	・ゆっくり正しく発音することに気を付けて，多少の動作を加えながら教師の言葉を繰り返す。	・言葉の意味を理解しながら動作し声の大きさに気を付けながら発音する。	・言葉の意味を理解しながら動作しはっきりと発音する。	・言葉の意味を理解しながら動作し声の大きさに気を付けながら発音する。	・ゆっくり正しく発音することに気を付けて，発音する。	
考える	2. 床に散りばめられた絵と，電子黒板に映された様子を表す言葉を一致させる。	・電子黒板の言葉をよく見て，床の絵を探して黒板に貼る。	・最初に言葉の意味を声に出して確認し，電子黒板の言葉をよく見て絵を探して黒板に貼る。	・電子黒板の言葉をよく見て，落ち着いて床の絵を探して黒板に貼る。	・電子黒板の言葉をよく見て，落ち着いて床の絵を探して黒板に貼る。	・最初に言葉の意味を声に出して確認し，言葉をよく見て床の絵を探し，黒板に貼る。仲間にアドバイスをする。	・電子黒板の言葉をよく見て絵を探して黒板に貼る。	
深める	3. 写真を見て，誰が，どのような様子で，どのように思ったのかを考える。	写真を見て分かることを，考えや気持ちを伝える言葉を使いながら書いたり，話したりしよう。						
確かにする	4. 自分の考えた文を発表する。	・気持ちを伝える言葉を選びながら，写真を見て分かることを書く。	・気持ちを伝える言葉が書かれたカードを見ながら，写真を見て分かることを書く。	・気持ちを伝える言葉を選んだり，自分で考えたりして文を書く。	・気持ちを伝える言葉を選び，支援を受けながら写真を見て分かることを書く。	・気持ちを伝える言葉を選んだり，自分で考えたりして文を書く。	・気持ちを伝える言葉を自分で選び，言葉をつなげて文を書く。	
	5. 自分や学級の皆のよかったところを発表し認め，振り返りをする。	・支援を受けながら考えた文を話す。	・考えた文をゆっくりと読む。	・考えた文を話す。	・考えた文をゆっくりと読んで話す。	・考えた文を話す。	・考えた文をゆっくりと話す。	
	6. 次時の見通しをもつ。	・自分の頑張ったところを話す。	・自分や他の児童が頑張ったところを話す。	・自分の頑張ったところを話す。	・自分や他の児童が頑張ったところを話す。	・自分や他の児童が頑張ったところを話す。	・自分が頑張ったところを話す。	

（知的）生活単元学習 学習指導案

1　単元名　「みんなでわくわく秋まつり」

2　単元について

本単元の目標を以下のように設定した。

【知識及び技能】
○秋の自然物を生かして，道具を安全に使いながらおもちゃを作成することができる。
【思考力，判断力，表現力等】
○お客さんにより楽しんでもらえるように，おもちゃのつくり方や遊びのルールを工夫したり，自分の考えを伝えたりすることができる。
【学びに向かう力，人間性等】
○秋祭りを成功させようとする意欲をもち，仲間と協力して準備を進めることができる。

本単元では，秋の自然物を用いておもちゃをつくり，それを使った遊びを考えて屋台を開く。そして，他学級の児童を招待し，他者と関わりながら楽しく活動することを目標にしている。

本学級の児童は，夏休み前に夏祭りを開き，多くの先生を招待して参加してもらった。児童は夏祭りを通して，協力して準備を進め自分の役割を果たし，お客さんに楽しんでもらうことへの喜びを感じることができた。次は秋祭りを開き，交流学級の児童を招待したいという児童の願いから，本単元を設定するに至った。

本単元では，屋台の内容や担当についての話し合いや，おもちゃをつくるためにどのくらいの材料が必要かを求める計算，おもちゃをつくる活動といった場面で各教科等の学習内容を含めた指導を行っていく。児童が主体的に活動を行いながら，各教科の内容が身に付くようにしていきたい。

児童が目的意識や学習の見通しをもって学習を進めていくことができる環境設定にも配慮したい。

最初に，「秋祭りを開く」という最終目標を明確にしておくことで，児童が目標に向かって意欲的に活動できると考える。また，単元全体の活動が一目で分かる単元構想図を作成するとともに，１時間の学習の流れを毎時間提示するようにし，その時間に行うことが常に把握できるように支援していきたい。

3　研究にかかわって

研究内容１-（１）他の学習や生活と学びがつながる学習活動の設定

【児童の実態把握と環境設定】

本時では，児童がお店屋さん役とお客さん役に分かれ，お客さんへの対応の仕方でよかったところやアドバイスを伝え合う。そこで，普段の生活の中で，話す時と聞く時の一人一人の特性やつまずきそうなことを把握しておき，それに合った教具の準備や環境設定をする。例えば，自発的に話すことが難しい児童には，教師と一緒に話し始めるようにするといった支援をする。また，声の大きさを意識すること，相手の顔を見ること，最後まで聞くことなど，交流する時に気を付けることを掲示しておき，どの児童も意識できるようにする。児童の苦手意識や不安感を軽減し，意欲的に活動できるようにする。また，本時だけでなく，あいさつや朝の会の進行といった，普段の活動でも意識できるようにする。

研究内容２-（２）単元・一単位時間での終末の在り方

【本時に達成できたことを振り返る】

授業の初めに，個人のめあてをホワイトボードに記入する。それを授業の終末に振り返り，達成できていれば，ホワイトボードに花丸を貼っていく。達成できなかったという児童に関しては，めあて以外の視点で価値付け，どの児童も達成感を味わえるようにしたい。その際に三つのことに気を付け指導する。

一つ目は，本時の最後に振り返りを行うと伝えておくことである。本学級は，改まった場で話すことが苦手な児童が多い。前もって伝えておくことで，児童が心の準備をしておけるようにする。二つ目は，ホワイトボードを掲示しておくことである。常に自分のめあてを意識して活動することができるようにする。三つ目は，振り返りを話す際の支援である。児童の言いたいことを教師が汲んで一緒に話し始めたり，ホワイトボードに書いためあてを読み上げたりするなど，個々に応じた方法で支援する。児童の達成感を高め，秋祭り本番への意欲につなげていく。

4　単元指導計画（全１７時間）

単元名：「みんなでわくわく秋まつり」

単元評価　　□（知識・技能）　■（思考・判断・表現）　☆（主体的に学習に取り組む態度）
□秋の自然物を使って，交流学級の子が楽しめるおもちゃをつくり，秋祭りを開くことができる。
■交流学級の子が楽しめるための工夫について，考えることができる。
■自分の意見をもち，発表したり，選んだりすることができる。
☆「楽しい秋祭りにしたい」という思いをもち，仲間と協力して準備を進めることができる。

時	学習内容	評価規準
1	オリエンテーション ・夏祭りの思い出を振り返り，秋祭りを開く意欲を高める。	☆単元の内容についての概要が分かる。 ☆秋祭りへの意欲を高めることができる。
2	秋の自然物には何があるか確認する。 ・自分の経験を基に考えたり，運動場に出て探してみたりする。	□秋の自然物の名前や，どこで手に入れられるかを知ることができる。
3 4	秋の自然物を使って，どのような屋台を作るか話し合って決める。 ・つくるおもちゃや遊びのルールを決める。 ・屋台の担当を決める。	■準備期間や交流学級の児童数を考慮して決めることができる。 ☆進んで調べたり，自分の意見を話したりすることができる。
5	おもちゃをつくるために，どのような材料がどれだけ必要かを考える。 ・おもちゃ1つあたりに必要な材料を調べる。 ・分かったことは，忘れないようメモしておく。	□自分ができる計算方法を用いて調べることができる。 □後から見て分かりやすいように，丁寧にメモを取ることができる。
6 7	必要な材料を集めに行く。 ・市民公園に行き，秋の自然物を集める。	□必要な数を数えながら集めることができる。 ☆秋の自然に親しみ，進んで材料を探すことができる。
8 9 10 11	秋の自然物を使って，おもちゃをつくる。 ・本や動画を参考にしてつくる。 ・遊べるかどうかを確かめながらつくる。	□秋の自然物を使って，自分のつくりたいおもちゃをつくることができる。 ☆進んで創作活動を楽しむことができる。
12 本時	仲間の屋台で遊んでみて，よかったところやアドバイスを伝え合う。 ・半分に分かれて，お客さん役と屋台役を交代する。	■仲間の屋台で遊び，よりよい話し方や聞き方を意識して，よかったところやアドバイスを伝え合っている。
13	さくら1組の子を秋祭りに招待する。 ・実際に遊んでもらい，改善点や困ったことはないか，振り返りをする。 ・感想を教えてもらい，自信につなげたり改善したりする。	■お客さんが楽しめるように，声掛けや遊びの進め方を工夫することができる。 ☆さくら1組の子の感想等をよく聞き，次につなげようとすることができる。
14 15 16 17	交流学級の子を秋祭りに招待する。 ・2年2組，4年1組，5年3組，6年1組の子を招待し，遊んでもらう。 ・最後に，頑張ったことやさらにやってみたいことについて振り返りをする。	■お客さんが楽しめるように，声掛けや遊びの進め方を工夫することができる。 ☆積極的に交流学級の仲間と関わろうとすることができる。

5 本時のねらい

仲間の屋台で遊び，よかったところやアドバイスを伝え合うことができる。

6 本時の学習展開（12/17）

	児童								
	本時願う姿	・相手に伝えたいことを自分で決めることができる。 ・困った時に，自分から援助要求をすることができる。	・教師の話や板書を通して，活動の流れを理解することができる。 ・相手が聞き取りやすい速さや発音を意識して伝えることができる。	・相手に聞こえるよう，声の大きさを意識して伝えることができる。 ・相手の感想を聞いて，反応することができる。	・自分の席や屋台から離れずに活動することができる。 ・相手の話を遮らずに，最後まで聞くことができる。	・適切な表現を使って感想を伝えることができる。 ・相手が聞き取りやすい声の大きさや速さを意識して伝えることができる。	・活動の見通しをもち，落ち着いて参加することができる。 ・仲間の屋台で楽しく遊ぶことができる。	・感想を分かりやすく伝えることができる。 ・相手の感想を聞いて，反応することができる。	・活動の内容を理解し，教師の指示を聞いて動くことができる。 ・相手の顔を見て，遊んだ感想を伝えたり，聞いたりすることができる。
	願う姿に迫るための手立て	・いくつかの内容を提示して，選んで話せるようにする。 ・「一緒に～してください」等の言葉の初めを教師が言い，続きを自分で言えるようにする。	・活動の内容や流れを視覚化し，確認できるようにする。 ・話す時に気を付けることを掲示し，意識できるようにする。	・話す時に気を付けることを掲示し，意識できるようにする。 ・反応できている児童を価値付け，真似できるようにする。	・今は何をする時間なのか，マグネットで示し，分かるようにする。 ・「最後まで聞くよ」と声をかけたり，聞く姿勢を整えたりしてから，聞くようにする。	・言葉で表現するのが難しい時は，教師がイメージを引き出し，適切な言葉を提示する。 ・話す時に気を付けることを掲示し，声の大きさや速さを意識できるようにする。	・活動の流れを見るよう促し，今は何をする時間なのか確認できるようにする。 ・楽しく遊ぶことができている姿があれば，価値付ける。	・話型を提示し，参考にできるようにする。 ・反応できている児童を価値付け，真似できるようにする。	・分かりやすい言葉で，一つずつ指示を出す。 ・話す前に，「○○さんの顔を見てね」と言葉をかけ，意識できるようにする。

	学習活動	指導・援助	研究にかかわって
つかむ 考える 深める 確かにする	**1 本時行うことを確認し，見通しをもつ。** ・夏祭りの時みたいに，楽しいお祭りにしたいな。 ・友達の屋台で遊んで思ったことを伝えて，もっと楽しい屋台にしよう。 **2 本時の学習課題を設定する。** ともだちのやたいであそんでみて，よかったところやアドバイスをつたえあおう。 **3 個人のめあてをホワイトボードに記入する。** ・相手に聞こえる声の大きさで話したいです。 ・相手の話を最後まで聞きたいです。 **4 半分に分かれ，屋台で遊んでみた感想を伝える。** ・笑顔で話してくれて，気持ちがよかったです。 ・遊び方の説明が分かりやすかったです。 ・「いらっしゃいませ」の声を，もう少し大きくするといいと思いました。 ・おもちゃの渡し方が，とても丁寧でした。 ・「ありがとうございました」の言い方が，心がこもっていてよかったです。 ・はきはきとした声で，聞きやすかったです。お客さんの目を見て話すと，もっとよくなると思います。 **5 本時の学習を振り返る。** ・○○さんの屋台で遊んで，「『いらっしゃいませ』の声が元気いっぱいでよかったよ」と伝えることができました。 ・△△さんの屋台で遊んで，「お客さんの顔を見て話すともっとよくなると思うよ」とアドバイスを伝えることができました。	・夏祭りの様子を写真で提示し，想起できるようにする。 ・活動の流れを黒板に書いておくことで，常に確認することができるようにする。 ・話し方や表情，動作の丁寧さといったポイントを提示しておくことで，視点をもって活動できるようにする。 ・話す側の約束，聞く側の約束を確認する。 ・前半と後半で，お店役とお客さん役を交代して感想を伝え合う。 ・児童の名前プレートや顔写真を，お店役とお客さん役に分けて掲示することで，自分が今どちらの役なのか理解できるようにする。 ・めあてを文章化することが難しい児童は，教師が思いを汲み取って代筆する。 ・話し方や聞き方のよい姿を価値付ける。 ・授業の初めに，キラッとタイムで全員に話をしてもらうことを伝え，心の準備ができるようにする。 ・頑張ったことを自分で発表したり，仲間や教師に認めてもらったりすることで，本時の達成感を高められるようにする。	**【研究内容1－(1)】** ・話す時と聞く時の一人一人の特性やつまずきそうなことを把握しておき，それに合った手立てや教具の準備，環境づくりをすることで，児童が意欲的に学習に参加できるようにする。 **【研究内容2－(2)】** ・個人のめあてが達成できていれば，ホワイトボードに花丸を貼っていく。達成できたか自分で判断することが難しい児童については，他の児童に評価してもらうようにする。どの児童も達成感を味わい，秋祭りへの意欲を高められるようにする。 **【評価規準】** 仲間の屋台で遊び，よりよい話し方や聞き方を意識して，よかったところやアドバイスを伝え合っている。 **（思考・判断・表現）**